



Informatica® Informatica
10.1

リリースノート

Informatica Informatica リリースノート

10.1

2016 年 6 月

© 著作権 Informatica LLC 1998, 2018

発行日: 2018-07-02

目次

Abstract.....	v
第 1 章 : Informatica のインストール.....	6
サポートの変更.....	6
JRE 1.8 SR2 FP10 のダウンロード.....	6
Windows でのインストール時のアプリケーションサービスの作成.....	7
Windows での暗号化キーのエラーメッセージ.....	7
サイレントモードでのインストール.....	7
第 2 章 : Informatica のアップグレード.....	8
Informatica インストールを別のマシンに移行した後の Informatica ドメインのアップグレード.....	8
アップグレード後の最大ヒープサイズ設定のリセット.....	8
別のデータベースへのドメイン環境設定リポジトリの移行.....	9
別のマシンへのノードの移行.....	9
新しい設定へのアップグレード.....	9
カスタムキーストアドメインへのアップグレード.....	9
9.6.1 HotFix 4 から 10.1 へのアップグレード.....	10
ドメインのアップグレード.....	10
バージョン 9.5.1 からのアップグレード.....	10
プロファイルのアップグレード後の Infacmd コマンドの実行.....	11
第 3 章 : 10.1 の解消された制限事項と実装された拡張要求.....	12
Big Data の解消された制限事項.....	12
Business Glossary の解消された制限事項と実装された拡張要求.....	14
Data Transformation の解消された制限事項と実装された拡張要求.....	15
Informatica Analyst の解消された制限事項.....	15
Informatica コネクタツールキットの解消された制限事項.....	18
Informatica Developer の解消された制限事項と実装された拡張.....	19
Informatica Domain Fixed Limitations.....	24
Live Data Map の解消された制限事項.....	26
Metadata Manager の解消された制限事項.....	27
PowerCenter の解消された制限事項と実装された拡張.....	29
ルール仕様の解消された制限事項と実装された拡張.....	31
サードパーティ製品で解消された制限事項.....	32
第 4 章 : 10.1 の既知の制限事項.....	33
Administrator ツールの既知の制限事項.....	34
Analyst ツールの既知の制限事項.....	34
アプリケーションサービスの既知の制限事項.....	35
Big Data の既知の制限事項.....	36

Business Glossary Known Limitations.	40
コマンドラインプログラムの既知の制限事項.	42
Informatica コネクタツールキットの既知の制限事項.	43
Data Transformation の既知の制限.	43
データ型の既知の制限事項.	44
Developer tool の既知の制限事項.	45
Intelligent Data Lake の既知の制限事項.	47
Live Data Map の既知の制限事項.	47
マッピングおよびワークフローの既知の制限事項	49
Metadata Manager の既知の制限事項.	51
PowerCenter の既知の制限事項.	53
プロファイルおよびスコアカードの既知の制限事項.	54
ルール仕様の既知の制限事項.	54
サードパーティ製品に関する制限事項.	56
トランスフォーメーションの既知の制限事項.	58
第 5 章 : Informatica グローバルカスタマサポート	60

Abstract

このドキュメントには、Informatica 10.1 の制限された機能および既知の制限事項に関する重要情報が記載されています。

第 1 章

Informatica のインストール

この章では、以下の項目について説明します。

- [サポートの変更, 6 ページ](#)
- [JRE 1.8 SR2 FP10 のダウンロード, 6 ページ](#)
- [Windows でのインストール時のアプリケーションサービスの作成, 7 ページ](#)
- [Windows での暗号化キーのエラーメッセージ, 7 ページ](#)
- [サイレントモードでのインストール, 7 ページ](#)

サポートの変更

バージョン 10.1 では、次のサポートが変更されます。

サポートの変更	サポートレベル	コメント
SUSE 11	サポートの追加	バージョン 10.1 では、SUSE Linux Enterprise Server 11 のサポートが追加されました。

製品要件およびサポート対象プラットフォームの詳細については、次の Informatica Network で Product Availability Matrix を参照してください。

<https://network.informatica.com/community/informatica-network/product-availability-matrices/overview>

JRE 1.8 SR2 FP10 のダウンロード

AIX に Informatica をインストールする場合は、事前に Java Runtime Environment (JRE) バージョン 1.8 SR2 FP10 をダウンロードする必要があります。

回避策: JRE_ifix_new_AIX_10.1.tar ファイルを Informatica Network ポータルからダウンロードする必要があります。

AIX 用 JRE 1.8 SR2 FP10 をダウンロードする方法の詳細については、Informatica ナレッジベースの記事を参照してください。 <https://kb.informatica.com/howto/6/Pages/19/498258.aspx?myk=download%20jre>

(CR 461665)

Windows でのインストール時のアプリケーションサービスの作成

Windows に Informatica サービスをインストールし、インストール時にアプリケーションサービスを作成する場合、すべてのシステム要件とユーザー権限を確認する必要があります。

システムや権限の要件を満たさない場合、インストール時にモデルリポジトリサービスやデータ統合サービスが作成されません。エラーメッセージが表示され、インストールが終了します。

回避策: Informatica サービスのインストールを開始する前に、Informatica サービスのインストール先マシンがすべてのシステム要件を満たし、インストーラを実行するユーザーアカウントに正しい権限が付与されていることを確認してください。

(CR 441874)

Windows での暗号化キーのエラーメッセージ

Windows で Informatica サービスをインストールして暗号化キーを生成すると、インストーラが isp コマンドの実行に失敗して次のエラーが表示される。

このアプリケーションのサイドバイサイド構成が正しくないため、アプリケーションを開始できませんでした。詳細については、アプリケーションのイベントログを参照するか、コマンドラインツール sxstrace.exe を使用してください。

回避策: Visual Studio 2008 をインストールしてから、インストールを再起動します。

(CR 461394)

サイレントモードでのインストール

インストーラをサイレントモードで起動し、JDBC を使用してデータベースに接続すると、インストーラに次のエラーが表示される。

```
silentinstall.sh: line 607: bc: command not found
```

```
silentinstall.sh: line 608: [: -lt: unary operator expected
```

回避策: エラーを無視し、インストールを続行する。

(CR 461194)

第 2 章

Informatica のアップグレード

Informatica インストールを別のマシンに移行した後の Informatica ドメインのアップグレード

次の条件があてはまる場合、インストーラはホストマシンに Ping できません。

- Informatica ドメインを別のマシンに移行した。
- **【ノード設定への変更を許可します】** と **【アップグレード前のチェックの有効化】** オプションを有効にした。
- 新しいホストマシンと古いホストマシンが同じユーザーアカウントを共有している。

回避策: エラーを無視し、アップグレードを続行します。

(CR 431565)

アップグレード後の最大ヒープサイズ設定のリセット

アップグレードするときに、アップグレードプロセスが大量のヒープ領域を消費します。アップグレードプロセスは自動的に最大ヒープサイズを 4 GB に設定します。

アップグレードプロセスが終わったら、モデルリポジトリの最大ヒープサイズのプロパティをアップグレード前の設定か、または推奨値の 1 GB にリセットしてください。

(CR 440936)

別のデータベースへのドメイン環境設定リポジトリの移行

アップグレード時に IBM DB2 または Microsoft SQL Server のドメイン環境設定リポジトリを別のデータベースへ移行する場合、状況によってはサイレントモードでアップグレードできません。

次の状況では、バージョン 10.0 をサイレントモードでアップグレードできません。

- ドメイン環境設定リポジトリが IBM DB2 にあり、リポジトリを複数パーティションのデータベースから単一パーティションデータベースに移行する。
- ドメイン環境設定リポジトリが Microsoft SQL Server にあり、リポジトリをカスタムスキーマのデータベースからデフォルトスキーマのデータベースに移行する。

回避策:

- Windows の場合、Informatica ドメインをグラフィカルモードでアップグレードします。
- UNIX の場合、Informatica ドメインをコンソールモードでアップグレードします。

(CR 440711)

別のマシンへのノードの移行

Informatica 10.0 にアップグレードし、ノードを別のマシンに移行する場合は、**[アップグレード前のチェックの有効化]**オプションを選択しないでください。

アップグレード時にノードを別のマシンに移行する場合、アップグレードウィザードはアップグレード前のチェックを正しく実行できません。アップグレード前のチェックを有効にするオプションを選択すると、アップグレードウィザードは正しくないドメインのサービスに関する情報をチェックします。

Informatica 10.0 へのアップグレード時に別のマシンへノードを移行する方法の詳細については、Informatica をアップグレードする前のバージョンの『Informatica アップグレードガイド』を参照してください。

(CR 428476)

新しい設定へのアップグレード

Microsoft SQL Server のカスタムスキーマから信頼された接続が有効な SQL Server データベースに移行すると、テスト接続に次のエラーで失敗する。

ユーザー 'UserName' はログインできませんでした

(CR 460338)

カスタムキーストアドメインへのアップグレード

カスタムキーストアドメインをアップグレードすると、カスタムキーストア環境がデフォルトの状態に変更される。

回避策: カスタムキーストアドメインをアップグレードするときに、次のステップを行います。

1. ドメインをシャットダウンします。
2. すべてのゲートウェイノードで `updategateway node` コマンドを実行します。
3. キーストアファイルの場所とキーストアパスワードを更新します。
4. ドメインを再起動します。

(CR 460922)

9.6.1 HotFix 4 から 10.1 へのアップグレード

9.6.1 HotFix 4 から 10.1 にアップグレードすると、アナリストサービスが開始に失敗する。

回避策: 手動で `/export/home/atqa/dxia/10.1/312/services/AnalystService/analyst` ディレクトリおよび `/export/home/atqa/dxia/10.1/312/tomcat/temp/ATS/work/ATS/localhost` ディレクトリを削除してから、アナリストサービスを起動します。

(CR 458215)

ドメインのアップグレード

ドメインをアップグレードして Administrator ツールでアナリストサービスを開始するときに、Administrator ツールに次のエラーが表示される。

The status of the upgrade cannot be determined. Use the command line program to complete the upgrade process

回避策: Administrator ツールからログアウトして、再度ログインします。

(CR 436393)

バージョン 9.5.1 からのアップグレード

9.5.1 からアップグレードした後に、ログが `{infa_home}/logs/<node name>` ディレクトリではなく `tomcat/logs` ディレクトリに表示される。

(CR 456065)

プロファイルのアップグレード後の Infacmd コマンドの実行

次のいずれかの条件を満たす場合、アップグレード後に、infacmd migrateProfileResults コマンドおよび infacmd migrateScorecards コマンドを実行します。

- バージョン 9.0.1 またはバージョン 9.1.0 からアップグレードしている。
- バージョン 9.0.1 またはバージョン 9.1.0 でプロファイルを作成し、それを新しいバージョンに移行してから、バージョン 10.1 にアップグレードした。

注: バージョン 9.0、9.0.1、または 9.1.0 でプロファイルおよびスコアカードを実行した場合は、<-migrateFrom|-mfr>オプションに値 9.1.0 を入力します。バージョン 9.5.0 でプロファイルおよびスコアカードを実行した場合は、9.5.0 を入力します。

Informatica サービスのインストールディレクトリ<Informatica installation directory>/isp/bin に移動して、次のコマンドを実行します。

- infacmd.bat ps migrateProfileResults <-DomainName|-dn> domain_name <-UserName|-un> user_name <-Password|-pd> password <-MrsServiceName|-msn> MRS_name <-DsServiceName|-dsn> data_integration_service_name
- infacmd.bat ps migrateScorecards <-DomainName|-dn> domain_name <-UserName|-un> user_name <-Password|-pd> password <-MrsServiceName|-msn> MRS_name <-DsServiceName|-dsn> data_integration_service_name <-migrateFrom|-mfr> migrate_from_release

(IDE-1955)

第 3 章

10.1 の解消された制限事項と実装された拡張要求

この章では、以下の項目について説明します。

- [Big Data の解消された制限事項, 12 ページ](#)
- [Business Glossary の解消された制限事項と実装された拡張要求, 14 ページ](#)
- [Data Transformation の解消された制限事項と実装された拡張要求, 15 ページ](#)
- [Informatica Analyst の解消された制限事項, 15 ページ](#)
- [Informatica コネクタツールキットの解消された制限事項, 18 ページ](#)
- [Informatica Developer の解消された制限事項と実装された拡張, 19 ページ](#)
- [Informatica Domain Fixed Limitations, 24](#)
- [Live Data Map の解消された制限事項, 26 ページ](#)
- [Metadata Manager の解消された制限事項, 27 ページ](#)
- [PowerCenter の解消された制限事項と実装された拡張, 29 ページ](#)
- [ルール仕様の解消された制限事項と実装された拡張, 31 ページ](#)
- [サードパーティ製品で解消された制限事項, 32 ページ](#)

Big Data の解消された制限事項

以前の解消された制限事項に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

CR	説明
456324	TSL 1.2 を使用する Kerberos 対応ドメインに Hive 接続を作成できない。
455657	制御ファイルを使用して Hive テーブルを動的に作成する動的マッピングを実行すると、データ統合サービスでその制御ファイルのカラムのデータ型が読み取られない。代わりに、ソースデータオブジェクトのランタイムプロパティから読み取られる。
455097	Hadoop 環境で統合マッピングを実行すると、統合トランスフォーメーションで複数の存続レコードが返される場合がある。

CR	説明
453749	Hive エンジンで実行されるマッピングは、多数のソースカラムとターゲットカラムがある場合、完了にかかる時間が長くなる。
453557	Blaze マッピングがワークフローで実行されている場合、Administrator ツールからマッピングタスクを監視できない。
453494	2 つ以上のパーティションがある Hive テーブルに挿入するマッピングを実行すると、Hive エンジンの次のエラーでマッピングが失敗する。 Hive エラーコード[40,000]、Hive メッセージ[失敗: SemanticException パーティション仕様{…}に非パーティションカラムが含まれています]
453317	データプロセッサトランスフォーメーションを含むマッピングを Hadoop 環境で実行するとパフォーマンスが低下する。
450899	パラメータを含む 1 つの式トランスフォーメーションに複数のルックアップトランスフォーメーションが接続されている場合、データ統合サービスでのマッピングの Hive 実行プランの生成が失敗する。
450885	Hadoop クラスタに基礎となる Hive データベースの暗号化されたゾーンがある場合、データ統合サービスで一時 Hive テーブルの 1 つのテーブルが削除されると、マッピングが実行時に失敗する。
450884	Developer tool で Hive データオブジェクトのポートの順序を変更した後にマッピング実行プランを表示すると、Developer tool で正しくない実行プランが生成され、マッピングが実行時に失敗する。
449564	Hive 接続ユーザーがデータ統合サービスユーザーと異なり、hive-site.xml の hive.execution.engine プロパティ値が「tez」の場合、Tez ジョブが失敗する。
448711	式トランスフォーメーションで LTRIM、RTRIM、TRIM などの関数に文字列以外のポートが渡された場合、マッピングが Hive エンジンでの実行時に失敗する。
448591	式に TO_DATE 関数が使用されている場合、Tez での Hive マッピングが失敗する。
443150	Blaze エンジンのコンポーネント間で同期エラーが発生するため、Developer tool で Blaze エンジンのマッピングがハングし、Monitoring ツールにマッピングのステータスが表示されない。
442422	DEF フレームワークで、各 Blaze グリッドセグメントに過剰なファイル記述子が作成され、マッピングが終了するまでクリアされない。
441992	マッピングの Hive ターゲットに 4000 個を超えるカラムが含まれていると、マッピングの完了までに時間がかかる。
441541	アプリケーションタイムラインサーバーで Kerberos 認証が使用されている場合、Blaze エンジンを使用するジョブを監視できない。
440815	IBM BigInsights および Pivotal クラスタの Hive バイナリデータ型が含まれていると、マッピングがネイティブ環境で失敗する。
440121	アグリゲータトランスフォーメーションで 10 進型の MAX および MIN 関数を追加すると、ネイティブ環境で実行されるマッピングと Hadoop 環境で実行されるマッピングで出力データが異なる。

CR	説明
438578	プライマリキーを指定するか、Hive テーブルのプライマリキーセットのデータをプレビューすると、アップデートストラテジトランスフォーメーションを含むマッピングを検証できない。
437498	アグリゲータトランスフォーメーションで、式の ELSE 文と THEN 文の後の関数のデータ型が一致しない場合、マッピングが引数タイプの不一致エラーで失敗する。

Business Glossary の解消された制限事項と実装された拡張要求

以下の表に、解消された制限事項を示します。

CR	説明
455279	ビジネス用語テンプレートを編集してその親または子プロパティを【全般】セクションから【関連するアセット】セクションに移動した後に、ビジネス用語を関連付けることができない。
455278	Analyst ツールで、ラベルが 200 文字を超えているカスタムプロパティ名が切り詰められる。
455264	用語集を削除してインポートした後に、検索サービスでの用語集アセットのインデックス作成に時間がかかる。
455263	Analyst ツールで、書式が不正な Business Glossary エクスポートファイルがインポートされない。
455261	Business Glossary の LDAP ユーザー数が 8000 人を超えている場合、[用語集のセキュリティ] ワークスペースが応答しなくなる。
447611	[用語集] ワークスペースを開くときに多数の用語集がある場合、Analyst ツールが応答しなくなる。
446602	用語集アセットの検索またはソート時に Analyst ツールがランダムに更新され、選択していたチェックボックスが選択解除される。
445514	Analyst ツールで用語集アセットを表示すると、ブラウザが断続的にクラッシュする。

以下の表に、実装された拡張要求を示します。

CR	説明
446602	複数値タイプのカスタムプロパティを作成するときに、ユーザーによるプロパティ設定時の 1 つ以上の値の指定を必須にすることができる。
444718	Analyst ツールで、ビジネス用語から参照テーブル URL を削除できる。

Data Transformation の解消された制限事項と実装された拡張要求

以前の解消された制限事項に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

CR	説明
CM-7642	データプロセッサを開く前に、Developer で 【ファイル】 -> 【インポート】 を選択して Data Transformation をインポートすると、インポートウィザードがエラーで失敗する。
CM-7638	Snappy 圧縮された Avro ファイルを使用すると、ファイルが有効な場合でもデータプロセッサウィザードで「選択されている Avro ファイルは無効です」というエラーが発生する。この原因は、10.0 リリースで使用される Java バージョンでは Windows 8.x および 2012 プラットフォームで snappy.jar がロードされないためです。

以下の表に実装された拡張要求を示します。

CR	説明
459363	データプロセッサトランスフォーメーションは Amazon_emr の Parquet をサポートしている。
459356	データプロセッサトランスフォーメーションは MapR 5.1 ディストリビューションの Parquet をサポートしている。

Informatica Analyst の解消された制限事項

以前の解消された制限事項に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

CR	説明
461865	Microsoft SQL Server にプロファイリングウェアハウスをセットアップした場合、プロファイル結果で異常値を検出できない。
461862	プロジェクト名が 10 文字を超えると、スコアカードダッシュボードの 【プロジェクト別のスコアカード】 ペインの X 軸に完全なプロジェクト名が表示されない。
457721	バイナリのカラムを含む複雑なファイルデータオブジェクトを Developer tool にインポートした後、Analyst ツールの 【データプレビュー】 ペインにあるデータオブジェクトのデータカラムに、<binary>ではなく binary></binary>が表示される。
457340	プロファイル定義をインポートしてカラムプロファイルを実行した後に、最新のプロファイル実行で TIMELASTSAVED 値が更新されない。
455383	カラムプロファイルを実行するとき、異常値の検出に長時間かかる場合があり、Analyst ツールが応答を停止する。

CR	説明
454865	検索サービスがインデックスを構築している間にコミットが失敗すると、検索サービスが内部キャッシュでメモリ不足になる。
454276	Kerberos 認証が有効な Informatica ドメインで、プロジェクトに対する読み取り権限を持つユーザーがデータオブジェクトを開けない。
453269	モデルリポジトリへの接続がタイムアウトになると、管理者以外のユーザーがプロジェクトにアクセスできなくなる。
453115	モデルリポジトリに破損したメタデータが含まれている場合、アナリストサービスが起動しない。
452829	Kerberos 認証が有効な Informatica ドメインで、新規のマッピング仕様を作成すると、Analyst ツールからユーザーがログアウトされる。
452297	ユーザーがテーブルデータオブジェクトを作成するとき、ユーザーが管理者でない場合、Analyst ツールで接続またはプロジェクトをリストするのに最大 3 分間かかる場合がある。
451875	プロファイル結果の詳細ビューで、データドメインの【アクション】メニューでドリルダウンオプションを使用できるが、行でドリルダウンすることができない。
451385	プロジェクトのフォルダ内に 60 個を超えるデータオブジェクトがあり、【ライブラリ】 > 【プロジェクト】 > 【フォルダ】をクリックした場合、60 個のデータオブジェクトのみが表示され、【次へ】 オプションが表示されない。
451384	マッピング仕様をエクスポートまたは新規プロジェクトにインポートすると、アグリゲータ条件を持つマッピング仕様が変更されるか無効になる。
450848	フラットファイルデータオブジェクトを作成し、フラットファイルキャッシュの場所が設定されていない場合、Analyst ツールがハングする。
450409	プロファイルデータのカラムから参照テーブルを作成すると、Analyst ツールでデータ検証ライセンスエラーが表示される。
449722	Hive テーブルにカラムプロファイルを作成して、そのプロファイルに SQL フィルタを追加すると、プロファイル実行が失敗する。
446507	次の条件が当てはまる場合、「スコアカードを実行できません」というエラーが表示される。 1. バージョン 9.5.x で、リレーショナルデータオブジェクトまたはフラットファイルデータオブジェクトにスコアカードを作成し、マッピング仕様にもう 1 つスコアカードを作成した。 2. ドメインのバージョンを 9.5.x から 9.6.x にアップグレードした。 3. 最初のスコアカードをバージョン 9.6.x で開くと、スコアカードが正常に表示された。 4. 2 つ目のスコアカードをバージョン 9.6.x で開いた。
443365	ビジネス用語の【関連するアセット】 セクションにあるカラムプロファイルへのリンクをクリックすると、Analyst ツールに【検出】 ワークスペースが表示されるが、カラムプロファイルが表示されない。
442730	エンタープライズ検出プロファイルを開くと、プロファイルのヘッダが「<EDD_name>:<taskname>」と表示されず「<taskname>:<taskname>」と表示される。
442702	PowerCenter リポジトリサービスを Latin1 コードページのスーパーセットである MS Windows Latin 1 (ANSI) によって作成し、マッピング仕様を PowerCenter リポジトリにエクスポートする場合、リポジトリの接続に失敗する。

CR	説明
442595	カラム名に@、%、#、または+が含まれている場合、カラムの詳細ビューでプロファイル結果を参照できず、さらにカラムのプロファイル実行の比較が失敗する。
442161	【設定】 タブで、Business Glossary Desktop アプリケーションにサポートされていないビジネス用語のプロパティが表示される。
442150	承認ワークフローの間、Analyst ツールで承認者に投票タスクをユーザーグループに委任できないことが警告されない。
442067	バージョン管理システムを有効にし、次のオプションを設定したデータドメイン検出によってカラムプロファイルを実行すると、NULL ポインタ例外を受信する。 <ul style="list-style-type: none"> - データドメインを選択。 - サンプリングオプションとして 【ランダム】 を選択。 - ドリルダウンオプションとして 【ライブ】 を選択。
442055	バージョン管理システムを有効にしているとき、次の状況においてエンタープライズ検出プロファイルの 【実行】 オプションが表示されない。 <ol style="list-style-type: none"> 1. エンタープライズ検出プロファイルを作成する。 2. プロファイルをチェックインする。 3. 【編集】 をクリックして、プロファイルを編集する。 4. プロファイルをチェックアウトするようメッセージが表示され、プロファイルをチェックアウトする。 <p>回避策: それぞれのプロファイルタスクを開いて実行します。</p>
441751	VSAM、Adabas、または IMS 非リレーショナル z/OS データでスコアカードを作成できない。
441670	次の状況において、ドリルダウンの結果が表示されない。 <ol style="list-style-type: none"> 1. カラムプロファイルを作成し実行します。 2. 整数データ型のカラムの詳細ビューで、いくつかの値を選択してデータドメインを作成します。 3. カラムプロファイルとデータドメイン検出を追加するようにプロファイルを編集し、新しいデータドメインと最小一致率 1%を選択します。 4. プロファイルを実行します。 5. 整数データ型のカラムの詳細ビューで、推測されたデータドメインをクリックし、適合する行にドリルダウンします。 6. 【データプレビュー】 パネルを確認します。
441619	日付データ型のカスタムビジネス用語プロパティをインポートするとき、そのプロパティにデータが含まれていない場合には、Business Glossary Desktop にプロパティの日付が「1969 年 12 月 31 日」と表示される。
441171	Analyst ツールでは、前のインポートタスクの処理中にユーザーがブラウザを閉じると、以降の用語集のインポートタスクが許可されない。
440515	検索サービスが何度も失敗し、検索ログファイルに多数の例外エラーが生成される場合がある。検索インデックスが大きくなる。
439705	JSON または XML プロファイル結果を既存のリレーショナルスコアカードに追加しようとすると、NULL ポインタ例外を受信する。
439101	ソーシャルメディアをベースにしたソースのデータプレビューが Analyst ツールで機能しない。
438311	Analyst ツールが添付ファイルを保存するリモートディレクトリへのアクセス権を持つユーザーならば、だれでも用語集アセットにアタッチされたファイルを削除できてしまう。

CR	説明
438308	Analyst ツールが添付ファイルを保存するリモートディレクトリへのアクセス権を持つユーザーならば、だれでもコンテンツ管理者が用語集アセットにアタッチしたファイルを参照できてしまう。
437298	データ統合サービスグリッドに Windows ノードが含まれ、データ統合サービスが別のリモートプロセスでジョブを実行するように設定されている場合、データ統合サービスからフラットファイルキャッシュディレクトリにアクセスできないときに、フラットファイルの追加ウィザードが反応しなくなる。フラットファイルの追加ウィザードでは、フラットファイルキャッシュディレクトリにアクセスできないことを示すエラーが表示されます。
436614	Informatica ドメインで Kerberos ネットワーク認証を使用して、ネットワークのユーザーやサービスを認証するように設定している場合、Business Glossary で高度な承認ワークフローを使用できない。
435317	デプロイ中にプッシュダウンの最適化を使用するようにマッピング仕様を設定している場合、マッピング仕様のパフォーマンスが向上する。
431899	Developer tool で、JD Edward、LDAP、Microsoft Dynamics CRM、SAP（新しいアプリケーションベースの SDK）、Salesforce、ODATA、Teradata（ネイティブ）、または Netezza（ネイティブ）データソースのプロファイルを作成する場合、Analyst ツールでプロファイル結果を開いて表示できるが、そのプロファイルを編集することができない。
418855	Analyst ツールで、Kerberos 認証を使用するドメインでマッピング仕様を Excel にエクスポートできない。
402847	次の条件が当てはまる場合、Analyst ツールでプロファイルを保存するのに長い時間がかかる。 1. カラムプロファイルを作成した。 2. そのプロファイルでルールを追加または削除した。 3. そのプロファイルを保存した。

Informatica コネクタツールキットの解消された制限事項

以前の解消された制限事項に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

CR	説明
441871	アダプタプロジェクトをインポートしてメタデータを編集した後でメタデータをテストすると、メタデータテストに失敗する。

Informatica Developer の解消された制限事項と実装された拡張

以前の解消された制限事項に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

CR	説明
457931	Developer tool で最初にカラムプロファイルを作成して実行し、ランタイム環境として Hive オプションを選択すると、プロファイル実行が失敗する。
457864	次の条件が当てはまる場合、エラーメッセージが表示される。 1. Hive でテーブルを作成した。 2. リレーショナルデータオブジェクトとしてテーブルをインポートした。 3. データオブジェクトに対してカラムプロファイルを作成した。
457833	複数のプロファイルマッピングがある場合、最初のマッピングが個別に実行され、残りのマッピングが同時に実行される。
456493	Windows プラットフォームで Informatica PowerCenter 9.6.1 に HotFix 4 を適用した後に、services.msc から informatica 9.6.1 HF4 サービスを起動すると Informatica サービスの起動に失敗する。
454847	ルックアップトランスフォーメーションで複数のテーブルを結合するカスタムクエリが使用されている場合、マッピングの結果をプレビューできない。
454526	ODBC プロバイダタイプの Microsoft SQL Server ネイティブ接続を使用し、ストアードプロシージャトランスフォーメーションを作成してバイナリデータを Microsoft SQL Server に挿入すると、データ統合サービスが NULL データをロードする。
450875	9.5.1 からアップグレードした後に、複数の式トランスフォーメーションまたは多数の変数を伴うトランスフォーメーションが含まれるマッピングでマッピングのパフォーマンスが低下する。
450405	[設定] ダイアログボックスで参照データのコンテンツステータスを表示できない場合に、Developer tool で役に立たないエラーメッセージが表示される。
450353	ラベルとして数値を使用して分類子モデルを設定すると、モデルを開くことができない。
448230	入力ポートと対応する出力ポートの精度、スケール、データ型が一致しない場合に、Developer tool で関連付けトランスフォーメーションが無効にならない。
446644	論理オブジェクトのルックアップに対するルールを使用してカラムプロファイルを作成すると、プロファイル実行が NULL ポインタ例外で失敗する。
446641	次の条件が当てはまる場合、スコアカードメタデータが使用不可になる。 1. 管理者がマッピング仕様に対するプロファイルを作成した。 2. 管理者がプロファイルに対するスコアカードを作成し、読み取りおよび書き込み権限をそのスコアカードに割り当てた。 3. 管理者以外のユーザーがそのスコアカードを開いた。 4. 管理者が読み取りおよび書き込み権限を取り消した。 5. 管理者以外のユーザーがそのスコアカードを開いた。
443652	リレーショナルデータオブジェクトをインポートし、制御ファイルを使用してオブジェクトの接続を指定すると、指定した接続が操作で無視されることがある。

CR	説明
443366	ワークフロー変数をヒューマンタスク出力に割り当てた場合、ヒューマンタスクが実行されるときにデータ統合サービスが出力値を更新しない。
443273	アプリケーションまたはワークフローの一部となっているパラメータセットを削除しようとすると、Developer tool で NULL ポインタ例外が生成され、パラメータセットが削除されない。
442902	次の状況に当てはまる場合、マッピングが失敗する。 <ul style="list-style-type: none"> - マッピングがフラットファイルソース用に設計されていて、ソースをリレーショナルソースとしてパラメータ化する。 - マッピングがパラメータセットと一緒にデプロイされている。 - マッピングにリソースパラメータと、ポートリストパラメータまたはソートリストパラメータのいずれかがある。
442893	マッピングにルックアップトランスフォーメーションが含まれている場合、Developer tool でグループ名ルックアップカラムの下でルックアップポートが折りたたまれる。ルックアップポートが表示されないため、エディタでルックアップポートとダウンストリームトランスフォーメーション間のリンクが表示されません。
442766	次の条件に当てはまる場合、シングルソースの ID 照合分析を実行するマッピングがエラーで終了する。 <ul style="list-style-type: none"> - 一時インデックスデータを生成するように一致トランスフォーメーションを設定し、データベースにインデックスデータを書き込むようにトランスフォーメーションを更新する。 - 照合ストラテジで ID インデックスキーフィールドを選択していない。
442680	複数の出現カラムまたは PowerCenter からインポートしたレコードを持つノーマライズトランスフォーメーションでデータのプレビューが失敗する。
442599	Developer tool でドメインを 2 回設定するとマッピングのインポートが失敗する。
442496	【データオブジェクト】 タブでリソースパラメータのデフォルトパラメータ値を変更すると、 【データオブジェクト】 タブで正しいデフォルト値が表示されない。 【データオブジェクト】 タブにはリソースパラメータの元のデフォルトパラメータ値が表示されます。
442440	カスタマイズデータオブジェクトルックアップソースがあるルックアップトランスフォーメーションでデータのプレビューを実行したときに、テーブルがカスタマイズデータオブジェクトから削除されているか置換されていると、予期しないエラーが発生する場合があります。
442368	無効なマッピングの履歴バージョンを表示してから 【最適化されたマッピングを表示】 を選択すると、Developer tool で NULL ポインタ例外が返される。エラーを閉じて 【検証ログ】 ビューを開き、マッピングに関する問題を表示します。
442174	制御ファイルパスのパラメータとフラットファイルデータオブジェクトに含まれる名前を使用し、マッピングに含まれるフラットファイルソースのリソースパラメータを使用すると、マッピングが失敗する。
442136	【データオブジェクト】 タブで 【パラメータ】 オプションと 【値】 オプションを切り替えると、新しいデータオブジェクト値を選択した後に Developer tool でトランスフォーメーションの 【全般】 タブが開く。Developer tool では引き続き 【データオブジェクト】 タブが表示される必要があります。
441920	最適化されたマッピングに未接続ポートが含まれ、マッピングに出力例外が含まれているとデータのプレビューが失敗する。
441916	Developer tool で参照テーブルにタグを割り当てられない。

CR	説明
441756	パラメータ化されたソースとターゲットが含まれるワークフローをデプロイすると、リソースパラメータが関連付けられたパラメータセットにあり、Developer tool からワークフローを実行した場合、ワークフローでターゲットの作成に失敗する。
441295	カスタム文字列を置換するように標準化トランスフォーメーションを設定し、置換する文字列を設定から削除すると、Developer tool が応答しなくなることがある。
440915	複数のポートグループを持つトランスフォーメーションからマッピング内の別のオブジェクトにポートをドラッグすると、Developer tool でポートリンクが表示されない。この問題は、アドレスバリデータトランスフォーメーションや一致トランスフォーメーションなどのデータ品質トランスフォーメーションで起こります。
440804	分類子モデルの [フィルタ] フィールドに複数の値を連続して入力すると、各値を入力した後にカーソルが [ラベル] フィールドに移動する。
440693	ルーターでの中間ストリームのプロファイルと一致率の高い複数グループのトランスフォーメーションを実行すると、最初のグループの結果がすべてのグループの結果として表示される。
440656	パラメータ化されたルックアップソースを作成し、ルックアップ条件で入力カラムデータ型を変更すると、Developer tool で次の予期しないエラーメッセージが返される。 セル値を検証できません。
440630	フラットファイルデータソースから論理データオブジェクトマッピングを作成すると、再利用不可能なシーケンスジェネレータトランスフォーメーションを含めたときにマッピングが失敗する。再利用可能なシーケンスジェネレータトランスフォーメーションは使用できます。
440618	再利用可能なトランスフォーメーションでポートセレクタを作成し、名前によってポートを選択することを選択すると、Developer tool で使用可能なポートが一覧表示されない。
440537	JSON または XML プロファイルで新しいスコアカードを作成して実行したときにスコアカードの結果が表示されず、Analyst ツールでスコアカードを実行したときに NULL ポインタ例外を受信する。
439969	一致トランスフォーメーションで入力ポートを上または下に移動するとき、対応する出力ポートが同じように移動しない。実行時にトランスフォーメーションが予期せず停止することがある。
439799	マッピングタスクでマッピング出力を exceptionLoadCount 変数にバインドし、そのマッピング出力を削除すると、そのマッピングタスクが含まれるワークフローを検証できない。
439575	ヒューマンタスクで、ドメインから削除したユーザーにタスクインスタンスを分散する手順を設定できる。この問題は、データ値ごとにタスクを分散するようにヒューマンタスクを設定している場合に発生する。
439561	動的ソースでリソースをパラメータ化し、実行時にデータオブジェクトカラムを更新することを選択すると、ソースで設定したシステムパラメータをデータ統合サービスが解決できない。データ統合サービスは、フラットファイル制御ファイルのパラメータの解決にも失敗する場合があります。
439526	AIX マシンでファイルを管理するコンテンツ管理サービスを作成すると、[設定] ビューでアドレス参照データファイルのステータスを表示できない。
439426	ポートをリンクするためのキーボードのショートカット Ctrl+L を使用できない。

CR	説明
439227	マッピングパラメータのパラメータタイプがポート、ポートリスト、ソートリスト、式、リソース、または入力リンクセットのいずれかの場合、ワークフローパラメータをマッピングパラメータにバインドできない。
439136	ノーマライザトランスフォーメーションを含むパーティション化についてマッピングを有効にすると、データ統合サービスは常に 1 つのスレッドを使用してトランスフォーメーションを実行する。データ統合サービスは、複数のスレッドを使用して残りのマッピングパイプラインステージを実行できます。
439039	ウェイトベースアナライザトランスフォーメーションから式トランスフォーメーションに動的出力ポートをドラッグすると、式トランスフォーメーションでデータプレビューを実行できない。Developer tool にエラーが表示される。
436697	カナダの住所に認証モードでアドレス検証マッピングを実行すると、認証レポートで 0 が連続した 1 パーセントを下回るパーセント値が表示されることがある。
434792	キーフィールドポートを照合ストラテジに含んでいないと、一致トランスフォーメーションでキーフィールドポートの ID 分析が実行され、照合ストラテジポートが無視される。トランスフォーメーションでキーフィールドデータの照合分析が正しく実行されず、正確なクラスタが作成されません。
434785	異なる名前を持つカラムでデュアルソースでの分析を実行する ID 照合マッピングを実行すると、一致トランスフォーメーションが失敗し、エラーメッセージが生成される。
434612	オプションのポートを ID 照合分析に追加し、オプションのポートのデータ値が一致しない場合、一致トランスフォーメーションで重複する ID が見つからない。
434048	マッピングにパラメータタイプをサポートするトランスフォーメーションが含まれていない場合、マッピングの【パラメータ】タブで一部のタイプのパラメータを作成できない。Developer tool には、マッピング内のトランスフォーメーションで使用可能なパラメータタイプのみが含まれるパラメータタイプのリストが表示されます。例えば、マッピングにソートトランスフォーメーションが含まれていない限り、【パラメータ】タブでソートリストパラメータを作成できません。
428506	特定のデータ型の引数が必要な関数を持つ動的な式について式検証が失敗する。例えば、REVERSE()関数は CHAR データ型の引数が必要なため、検証に失敗します。
426613	Developer tool で、Binary データ型および Timestamp with Time Zone データ型を含む制御ファイルからカラムが不正に生成される。
424593	パラメータを持つトランスフォーメーションをコピーすると、Developer tool でトランスフォーメーションのコピーにパラメータが含まれない。この問題は、パラメータを持つトランスフォーメーションを含むマッピングをコピーした場合にも起こります。
421759	384 文字を超える文字が含まれているコマンドをワークフローのコマンドタスクにコピーしようとすると、Developer tool でエラーが表示される。
418747	スクリーンリーダーアプリケーションで、ワークフローの通知タスクのすべてのプロパティを読み取ることができない。
418643	スクリーンリーダーアプリケーションで、ワークフローの排他ゲートウェイのすべてのプロパティを読み取ることができない。
416924	ワークフローの排他ゲートウェイのプロパティに、スクリーンリーダーアプリケーションで役に立たないコード要素が含まれる。

CR	説明
416922	ワークフローの割り当てタスクのプロパティに、スクリーンリーダーアプリケーションで役に立たないコード要素が含まれる。
416760	XML ファイルからマッピングをインポートするとき、接続タイプが Developer tool でリストされない。
413597	データソースから確率モデルを作成するとき、モデル作成ウィザードでデータソースカラムが現在の順序で表示されないことがある。
404266	マップレットまたは論理データオブジェクトマッピングで再利用不可能なシーケンスジェネレータートランスフォーメーションを使用できない。ただし、再利用不可能なシーケンスジェネレータートランスフォーメーションをマッピングからコピーしてマップレットまたは論理データオブジェクトマッピングに貼り付けた場合、Developer tool で検証または実行時エラーが表示されません。
392963	バージョン 9.5 からアップグレードした後に、カスタマイズしたデータオブジェクトでのデータプレビューの実行が失敗する。
391296	マルチバイトデータ値を含む確率モデルを作成すると、モデルのデータビューで値が複数行に分割されることがある。この問題は、Developer tool のビューのサイズを変更し、データビューのデータ値が 2 つの行の間で移動する場合に発生します。データ値に 2 行以上に分割されるラベルを割り当てると、ラベルは正しい値に関連付けられないことがあります。ラベル値は、データビューの別の値を上書きする可能性があります。
371793	マッピングに複数の一致トランスフォーメーションが含まれる場合、一致トランスフォーメーションの 1 つの設定を変更すると、他の一致トランスフォーメーションの設定にも影響が及ぶことがある。
328632	ポート名を編集してプロパゲートした後に、Developer tool が修正されたポート名での式条件の更新に失敗する。

以下の表に実装された拡張要求を示します。

CR	説明
452530	Microsoft SQL Server 接続でプロバイダタイプを ODBC に設定してターゲットテーブルを切り詰める場合、データ統合サービスで最初にターゲットテーブルの切り詰めコマンドが実行される。切り詰めコマンドが失敗した場合、データ統合サービスは削除コマンドを実行します。これにより、マッピングのパフォーマンスが向上します。
451619	IBM DB2 接続を使ってテーブルをインポートするとき、テーブルのインポート元としてスキーマ名を 1 つ以上指定できるようになった。
447370	Developer tool でマッピングを実行する場合、 【進行状況】 ビューからジョブを監視できる。ジョブを監視するには、 【進行状況】 ビューでマッピング実行のリンクをクリックします。 【ジョブの監視】 を選択します。
403873	確率モデルに、モデルのコンパイルロジックがモデルの現在のラベルおよびデータ値に基づくかどうかを示すステータス値が含まれる。

Informatica Domain Fixed Limitations

以前の解消された制限事項に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

CR	Description
462198	<p>When you upgrade the domain from Informatica 9.0.1 to 10.1 and the domain configuration repository uses an Oracle, Sybase ASE, or Microsoft SQL Server database, the upgrade fails with an error. The upgrade error might vary depending on the database.</p> <p>The upgrade fails with the following error for an Oracle database:</p> <pre>java.sql.SQLException: [informatica][Oracle JDBC Driver][Oracle]ORA-00932: inconsistent datatypes: expected - got CLOB</pre> <p>The upgrade fails with the following error for an Microsoft SQL Server database:</p> <pre>OutPut : [ICMD_10033] Command [upgradeDomainMetadata] failed with error [[PERSISTENCEAPI_0307] [PERSISTENCECOMMON_0070] Internal error. Error occurred while executing the query with name 'getAdministratorGroup', and SQL query implementation 'SELECT a0.PSRESOURCE_CONTAINER.id from com.informatica.isp.metadata.usermanagement.impl.GroupImpl a0 where a0.surrogateERDbObjectId.proxyResourceId=0 and a0.surrogateERDbObjectId.namespaceId=5 and ((a0.securityDomain) LIKE ('Native')) AND (LOWER (a0.name) LIKE LOWER ('Administrator')))'. This was caused by [informatica][SQLServer JDBC Driver] [SQLServer]Argument data type ntext is invalid for argument 1 of lower function.].</pre>
458391	Attempts to fetch data from an SQL Data Service fail when the physical data source contains Unicode characters.
457601	When the domain creates system services before it assigns them to a node, you cannot use the Administrator tool to edit the service properties, and functionality of the system services is limited.
454233	The infacmd cms purge command might delete an active reference table if you run the command after you run the infacmd rtm deployImport command more than once.
453906	When a connection name contains the characters "ID" a mapping fails to compile because the connection is not found.
453555	When a web service request times out waiting for a web service or when you stop the web service from the Monitoring tool, the Data Integration Service shuts down.
452075	A workflow fails to run if it contains a gateway that connects directly to another gateway with a conditional sequence flow that you configure as the default sequence flow.
450874	When mapping logic contains the IN() function and the mapping logic is pushed down to the source, an outer join returns incorrect results.
450809	A java-level deadlock occurs when the alert service, the user management service, and domain configuration service wait on each other. For example, a deadlock occurs in the following situation: The alert service checks for user permissions while processing an email alert for a node inactive event. At the same time, the user logs in to the Administrator tool and the inactive node registers with the domain.
450614	The Model repository does not respond when web services are invoked for the first time.
450551	A security vulnerability enables any user to browse to any known file in the Model repository.

CR	Description
449011	When the master node in a grid fails over to a non-master node, the Content Management Service on the non-master node cannot find the reference data audit tables.
446677	Unable to associate users to a group if the group has more members than the value of the MaxValRange limit set for the LDAP server.
445152	When you upgrade from 9.6.1 to 10.0, the Model repository service fails with the following error: The Repository Service operation failed
444741	If a Mapping task fails in a workflow and runs to completion when the workflow recovers, the workflow graph does not reflect the completed status of the task.
443212	The Model repository requires a minimum values for the maximum heap size setting. Set maximum heap size to the recommended value of 1 GB, and the maxPermGen size to 512 MB. Lower settings generate an error.
443186	When you select a parent group in the Create Group wizard, the new group appears in the Native folder but is not nested under the parent group.
442538	If you update the connection details on exception record database, you must recycle the Data Integration Service before you run a workflow that writes data to the database.
442371	When you remove a node with the compute role from a Data Integration Service grid or disable the compute role on a node in the grid, the node is no longer listed in the Compute view for the service. However, the service retains the previously configured compute values for the node. If you add the node back to the grid or enable the compute role again, the node is configured with the previous values instead of the default values.
442043	When you run the infacmd sch updateschedule command, the schedule end date changes to No End Date. The end date changes regardless of whether you specify a value for the -ed option.
441895	When you schedule a job to run every 23 hours, the Scheduler Service might run the job at the wrong time.
441315	When you define a schedule with a repeat count value, the schedule properties do not display the value that you specify.
441302	You can configure a schedule that specifies a start date that is in the past.
440876	Workflow recovery fails when the workflow database is a Microsoft SQL Server database that uses a non-default schema.
440099	If the Data Integration Service stops unexpectedly while a Mapping task runs on grid, the monitoring tool indicates that the mapping is aborted and that the Mapping task is running.
440033	The monitoring tool indicates that a Mapping task in a workflow is running when the task failed because Data Integration Service execution instance was unavailable.
439709	In a mapping with a flat file data source that includes a column with double data type, the Data Integration Service erroneously reads data that should be rejected because it contains non-numeric characters. For example, the row should be rejected when it contains a value such as 12345678901234567890123456ab , but the Data Integration Service fails to reject the row. Instead, it reads the numeric characters and ignores the non-numeric characters.

CR	Description
439560	A Consolidation transformation writes different values to the IsSurvivor port in the native environment and in the Hadoop environment.
438472	You can run infacmd wfs recoverWorkflow to restart a workflow that is not enabled for recovery.
436938	If a Command task in a workflow enters a canceled state and runs to completion when the workflow recovers, the monitoring tool does not display the completed task.
435088	Export from the Model repository of a project with multiple objects failed.
430481	The workflow log does not provide the following information: <ul style="list-style-type: none"> - The workflow instance ID - The workflow recovery options - The name of the user who runs the workflow - The Data Integration Service that runs the workflow - The host node for the Data Integration Service - The security domain in which the workflow runs
420130	You cannot delete the backup file that the Model repository backup process produces.
354554	When a compile returns an error in the Java transformation and the client operating system default codepage is not ASCII, the error message is unreadable. A codepage mismatch occurs between the Java compiler and the Developer tool.

以下の表に実装された拡張要求を示します。

CR	Description
441236	If you update the password for the workflow database or for a database that stores exception record data, you do not need to recycle the Data Integration Service.
437400	When you create a non-master Content Management Service on a grid node, you do not need to create a Data Integration Service on the node.

Live Data Map の解消された制限事項

以前の解消された制限事項に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

CR	説明
450070	Live Data Map 管理者のリソースの [カスタム属性] タブでカスタム属性の [プロパゲート] オプションを選択していない場合も、カスタム属性がオブジェクトに適用される。
448258	IBM Cognos リソースを編集し、[メタデータのロード設定] タブの [コンテンツ] フィールドの値を変更すると、[コンテンツの選択] ダイアログボックスに、そのリソース用に前に選択したフィールドが選択済みとして表示されない。

CR	説明
446979	Informatica Administrator で最大ヒープサイズを変更できない。Informatica Administrator で最大ヒープサイズを増加すると、エラーメッセージに YARN アプリケーションが遅れて起動することが示される。
445971	クラスタでカタログサービスを無効にした後にそのサービスを有効にすると、スキャナがクラスタで起動しない。
444043	リソースを作成して、データドメインを設定しない場合、そのリソースが有効なリソースとして保存される。Live Data Map にエラーメッセージが表示されないか、必要なフィールドが検証されません。
443586	複数のスキーマまたはデータベースが含まれる Hive リソースを作成すると、プロファイリングスキャナの実行に失敗する。Hive プロファイリングスキャナでは、Hive リソース内で複数のデータベースをサポートしていません。
442135	Amazon EC2 などのクラウドベースデプロイメントで、Apache Slider によってデプロイされるアプリケーションサービスで使用するポートの範囲を指定できない。Apache Slider によってデプロイされるアプリケーションサービスには、HBase、Solr、ingestion などのサービスがあります。

Metadata Manager の解消された制限事項

以前の解消された制限事項に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

CR	説明
458778	カスタムリソースに含まれるオブジェクトの関連カタログオブジェクトを編集すると、Metadata Manager が応答を停止することがある。この状態になると、mm.log ファイルに NULL ポインタ例外が表示されます。
455538	Metadata Manager 9.6.1 HotFix 2 を使って Informatica Platform リソースをロードすると、次のエラーが発生する。 Arithmetic overflow error converting expression to data type int.
452728	Informatica Platform リソースの物理データオブジェクトのデータリネージュには、データリネージュは一方でも、物理データオブジェクトと対応するデータベーステーブルの間の双方向リンクが表示される。
452568	ドメインで Kerberos 認証が使用されている場合、ルールセット定義が含まれるモデルエクスポートファイルをインポートすると失敗する。
451565	ワイルドカード文字を使ってカラム名を指定している SELECT 文がネストされている INSERT INTO 文が CREATE PROCEDURE 文に含まれている場合、Metadata Manager で IBM DB2 for z/OS ストアドプロシージャのデータリネージュリンクが表示されない。
451561	Metadata Manager で、データをテーブルに挿入する IBM DB2 ストアドプロシージャとテーブル間のデータリネージュリンクが表示されない。

CR	説明
451102	リソースに、HDFS ソースファイルからデータを読み取ってテキストファイルにロードするマッピングが含まれる場合は、PowerCenter リソースのロードに次のデータベースエラーで失敗する。 Invalid length parameter passed to the LEFT or SUBSTRING function.
451067	ビュー定義に INTERSECT、MINUS、または UNION の操作が含まれている場合、Metadata Manager で、Netezza ビューとその作成元のテーブル間のデータリネージュリンクが表示されない。
450939	Metadata Manager に、Teradata テーブルと対応するビューの間の正しくないデータリネージュリンクが表示される。
450048	ソース修飾子に特定の SQL クエリが含まれている場合、Metadata Manager には、PowerCenter ソース修飾子とデータベーステーブルの間のリンクが表示されない。
449349	図が非常に複雑で、終了オブジェクトからデータリネージュ分析を開始する場合、データリネージュの実行が内部エラーで失敗することがある。
448410	リソースのロード中に SQL パーサーでメモリリークが発生する。
446454	INSERT INTO 文でワイルドカード文字を使って任意のカラムを指定している場合、Metadata Manager で、この INSERT INTO 文を含むストアドプロシージャ内のテーブルに対するデータリネージュリンクが表示されない。
446428	オブジェクト名が 255 文字を超える場合、CSV から IME へのコンバータでカスタムリソースをロードできない。
445726	SAP との接続が接続パラメータで指定され、パラメータ値に小文字が含まれている場合、Metadata Manager で SAP R/3 テーブルと PowerCenter セッション間のデータリネージュが表示されない。
445156	データリネージュ図のサイズが Web ブラウザにとって大きすぎる場合は、そのデータリネージュ図のエクスポートに失敗する。
443675	Metadata Manager がすべての JSON ファイルを抽出した後に Cloudera Navigator がアクセス不可になった場合、Cloudera Navigator リソースをロードできない。
443602	Metadata Manager では、アップストリームとダウンストリームの影響を受けるオブジェクトの数が 1000 を超えるオブジェクトの影響のサマリを表示できない。
440560	類似するデータセットおよびストアドプロシージャを持つ複数の PowerCenter リソースを同時にロードすると、次のエラーで失敗する。 An error occurred in LineageGraphInternalLinksCreationTaskHandler
440343	パッケージ化されたリソースのオブジェクトを選択して、Microsoft Excel ファイルにエクスポートし、ビジネス名またはカスタム属性のいずれかを更新して、その Excel ファイルを再インポートすると、次のエラーでインポートが失敗する場合があります。 I/O error.
440298	ビューの 1 つで特定の SQL クエリにより IBM DB2 9.7 リソースをロードすると、セッション S_M_ALLDB_VIEW_DEPS_EXTRACT が次のエラーで予期せず終了する。 FATAL ERROR : An unexpected condition occurred in file [<path>/tpordvec.h] line [95]. Aborting the DTM process. Contact Informatica Global Customer Support.

CR	説明
439624	ルールベースのリンクが「Violation of PRIMARY KEY constraint（プライマリーキー制約の違反）」エラーで終了することがある。
434669	Metadata Manager には、Teradata トリガと、そのトリガが関連付けられているテーブルとの間のデータリネージュリンクが表示されないことがある。
426758	Informatica Platform 10.x リソースを作成した場合、アプリケーション、パラメータセット、およびマッピングが選択リストに表示されるまで 15 秒以上の時間がかかる場合がある。

PowerCenter の解消された制限事項と実装された拡張

以前の解消された制限事項に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

CR	説明
462936	ODBC プロバイダタイプの Microsoft SQL Server ネイティブ接続を使用して 64KB を超える画像データを読み取ると、PowerCenter 統合サービスが画像データを 64KB に切る詰める。
460190	ODBC プロバイダタイプの Microsoft SQL Server ネイティブ接続を使用してエラーログテーブルを設定すると、PowerCenter 統合サービスがテーブルの作成に失敗する。
456700	Workflow Manager のセッションプロパティで [再利用可能にする] オプションが表示されない。
456698	ワークフローをコピーするかワークフローが含まれるフォルダをデプロイするとき、ターゲットリポジトリに接続する権限がない場合でも、依存する接続をコピーできる。
455493	ソースデータにアクセント記号付きの文字が含まれている場合、キーマスキングを使用するセッションが失敗する。
454526	ODBC プロバイダタイプの Microsoft SQL Server ネイティブ接続を使用し、ストアードプロシージャトランスフォーメーションを作成してバイナリデータを Microsoft SQL Server に挿入すると、PowerCenter 統合サービスが NULL データをロードする。
452722	SQL トランスフォーメーションで SQL クエリを編集した場合、Designer が予期せずシャットダウンする。
452688	リポジトリにソースオブジェクトへのショートカットが含まれている場合、リポジトリのアップグレードが失敗する。
452208	9.6.1 HotFix 3 をインストールするか 9.6.1 HotFix 3 にアップグレードするとき、Web Services Hub を作成できない。
452195	ソースおよびターゲット定義を IBM DB2 バージョン 10.5 からインポートした後に、char 型および varchar 型のカラムの精度が不正になる。

CR	説明
452148	Web サービスコンシューマトランスフォーメーションのパススルーポートの名前を変更しようとすると、Designer が予期せずシャットダウンする。
450904	デフォルトのバッファブロックサイズを増やして、Clob データ型のカラムが含まれる Oracle ソースから大量のデータを読み取ると、セッションが予期せずシャットダウンする。
450310	デプロイ中にオブジェクトを検証した後に、PowerCenter リポジトリサービスがターゲットリポジトリでセッションの保存に失敗する。
447202	ターゲットリポジトリに対するデプロイメントグループをデプロイした後に、ソースリポジトリから読み取った後でオブジェクトが変更されるという不正なエラーが表示される。
445137	セッションを編集するとき、Workflow Manager でセッションの現在のログカウントが表示されなくなる。
444347	デプロイ後、ワークフロー内の FTP 接続オーバーライドが失われる。
442228	pmrep で、テーブル名の先頭が数値である xml のインポートに失敗する。
441033	Web サービス Hub がクライアント要求でチャックメッセージを処理するとき、Web サービス Hub が SOAP 要求の処理に失敗する。
441020	ワークフローをインポートし、Workflow Manager のマッピングインスタンスからワークフローを比較した後に、エラーが発生する。
439129	pmdtm プロセスが反応しない状態であるとき、PowerCenter リアルタイムセッションの CPU 使用率が高くなる。
432803	ターゲットのプッシュダウンの最適化を使用し、生成されたクエリでワークフロー変数が使用されている場合、セッションが失敗する。
422219	DSN 名の先頭が数値であるソースオブジェクトのインポートに失敗する。
399328	セッションリカバリを有効にしてタスクを再起動するとき、トランザクションコントロールトランスフォーメーションを含むセッションがエラーで失敗する。

以下の表に実装された拡張要求を示します。

CR	説明
452530	Microsoft SQL Server 接続でプロバイダタイプを ODBC に設定してターゲットテーブルを切り詰める場合、PowerCenter 統合サービスで最初にターゲットテーブルの切り詰めコマンドが実行される。切り詰めコマンドが失敗した場合、PowerCenter 統合サービスは削除コマンドを実行します。これにより、セッションのパフォーマンスが向上します。
205998	pmrep CreateConnection コマンドを使用して FTP 接続を作成できる。
203376	pmrep AssignIntegrationService コマンドを使用して PowerCenter 統合サービスにワークフローを割り当てることができる。

ルール仕様の解消された制限事項と実装された拡張

以前の解消された制限事項に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

CR	説明
461876	ルール仕様からマップレットを生成するとき、Analyst ツールがルール仕様の名前をプレフィックスとしてプライマリルールセットのマップレットに追加する。
451736	カレンダー日付で例外タスクの日付カラムをフィルタリングするとき、選択した日付とその翌日のレコードが Analyst ツールで表示される。
450139	ルール仕様をコンパイルするとき、生成したマップレットで、同じ名前の他のルール仕様のマップレットが上書きされる場合がある。
444287	ルール仕様パラメータにより、Analyst ツールでクロススクリプティングの脆弱性が生じる場合がある。
444272	例外管理パラメータにより、Analyst ツールでクロススクリプティングの脆弱性が生じる場合がある。
442115	2 つ以上のルール仕様を開くと、Analyst ツールで最初のルール仕様のトップレベルのプロパティのみが表示される。
441397	ルールセット名または説明を入力し、ワークスペースで他のルールセットを選択すると、Analyst ツールで入力したテキストが破棄される。
441358	ルール仕様での全般プロパティにより、Analyst ツールでクロススクリプティングの脆弱性が生じる場合がある。
440755	1 回の操作で例外タスクのすべてのページで数値のすべてのインスタンスを NULL 値に置換することができない。
440742	1 回の操作で例外タスクの現在のページで数値のすべてのインスタンスを NULL 値に置換することができない。
439753	次の条件が当てはまる場合、チームベース開発機能が想定どおりに機能しない。 <ul style="list-style-type: none">- @記号が含まれるユーザー名を使用して Analyst ツールにログインした。- ルール仕様を作成した。
437273	データカラムの特定の整数をすべて別の整数に置換する例外レコードタスクでは、検索と置換オプションを使用できない。
435347	次の場合に、Analyst ツールで例外タスクまたはクラスタタスクの [編集] ボタンが無効になる場合がある。 <ul style="list-style-type: none">- タスクを開いた。- そのタスクを保存して Analyst ツールを更新した。
416858	Analyst ツールのタスクからクラスタデータをエクスポートすると、エクスポートしたクラスタと関連付けられていないクラスタ分析データがエクスポート操作に含まれる。

以下の表に実装された拡張要求を示します。

CR	説明
436796	Analyst ツールで例外タスクに対する作業を行う場合、他のユーザーが同時セッションで同じタスクに対する作業を行うことができない。
408224	例外タスクで選択したレコードのセットに含まれるデータに対して、検索操作および置換操作を実行できる。

サードパーティ製品で解消された制限事項

以前の解消された制限事項に関しては、以前のリリースのリリースノートをご確認ください。

以下の表に解消された制限事項を示します。

CR	説明
438011	Red Hat Linux バージョン 7.0 オペレーティングシステムで、Teradata ODBC 接続に Kerberos 認証を設定した場合、接続に失敗する。 Teradata インシデント参照番号: RECGLT7AL
424900	Sybase データオブジェクトスキーマを定義する.xsd ファイルから作成された論理データオブジェクトモデルを検証すると検証エラーが発生することがあり、検証エラーには、精度とデータ型の不一致がレポートされる。 MITI の事例番号: INFADDEV-41

第 4 章

10.1 の既知の制限事項

この章では、以下の項目について説明します。

- [Administrator ツールの既知の制限事項, 34 ページ](#)
- [Analyst ツールの既知の制限事項, 34 ページ](#)
- [アプリケーションサービスの既知の制限事項, 35 ページ](#)
- [Big Data の既知の制限事項, 36 ページ](#)
- [Business Glossary Known Limitations, 40](#)
- [コマンドラインプログラムの既知の制限事項, 42 ページ](#)
- [Informatica コネクタツールキットの既知の制限事項, 43 ページ](#)
- [Data Transformation の既知の制限, 43 ページ](#)
- [データ型の既知の制限事項, 44 ページ](#)
- [Developer tool の既知の制限事項, 45 ページ](#)
- [Intelligent Data Lake の既知の制限事項, 47 ページ](#)
- [Live Data Map の既知の制限事項, 47 ページ](#)
- [マッピングおよびワークフローの既知の制限事項, 49 ページ](#)
- [Metadata Manager の既知の制限事項, 51 ページ](#)
- [PowerCenter の既知の制限事項, 53 ページ](#)
- [プロファイルおよびスコアカードの既知の制限事項, 54 ページ](#)
- [ルール仕様の既知の制限事項, 54 ページ](#)
- [サードパーティ製品に関する制限事項, 56 ページ](#)
- [トランスフォーメーションの既知の制限事項, 58 ページ](#)

Administrator ツールの既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

CR	説明
452798	Sqoop を経由してデータをインポートまたはエクスポートする場合、Administrator ツールの【監視】タブに実行統計が正しく表示されない。 回避策: yarn ログで実行統計を確認します。
440143	Kerberos 認証を使用するドメインの場合、Administrator ツールの一部のビューで、オペレータロールが割り当てられているユーザーに次のメッセージが表示される。 モデルリポジトリが設定されていません。管理者に連絡してください。 これは、モデルリポジトリが設定されていても発生します。 回避策: 監視用に設定されたモデルリポジトリサービスの管理者ロールをオペレータユーザーおよびグループに割り当てます。
438332	Kerberos 認証を使用するドメインの Monitoring ツールの場合、[ログアウト] メニューでユーザーが Monitoring ツールからログアウトされない。 回避策: Monitoring ツールからログアウトするには、ブラウザウィンドウを閉じます。
437717	Kerberos 認証を使用するドメインの場合、セッションの有効期限が切れた後に Administrator ツールにログインすると、【管理】および【モニタ】タブにログインページが表示されることがある。 回避策: Administrator ツールからログアウトして、再度ログインします。
436587	ノードをドメインに参加させてから、Administrator ツールでノードのプロパティが表示されるまで 10~15 秒かかる。
429227	ノードの [ログコレクションディレクトリ] プロパティを設定すると、[ログコレクションディレクトリ] プロパティをクリアできない。

Analyst ツールの既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

CR	説明
460405	2 要素認証が使用される Windows ネットワークで pcclientsmartuser を使用してマッピング仕様を PowerCenter リポジトリにエクスポートしようとすると、マッピング仕様のエクスポートが失敗する。 INFAKRB.INFADEV.COM を使用してマッピング仕様を PowerCenter リポジトリにエクスポートします。
421325	参照テーブルの値を検索し、無効な値で置換しようとする、Analyst ツールが正しくないエラーメッセージを返す。そのエラーメッセージは、指定した検索値が参照テーブルに含まれていないと通知します。この問題は、指定した置換値に使用されている精度が、参照データカラムに対して高すぎる場合に発生します。
396636	他のユーザーが変更したアセットを削除しようとしたとき、Analyst ツールでは、そのアセットが最新版ではないという警告が表示されない。

アプリケーションサービスの既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

CR	説明
459892	データ統合サービスでオペレーティングシステムプロファイルのマッピングを同時に実行すると、メモリが過度に使用される。
443052	次の条件が当てはまる場合、ワークフローマッピングタスクに含まれているマッピングの DTM ログファイルが DTM プロセスで作成されない。 <ul style="list-style-type: none">- データ統合サービスは、個別のリモートプロセスでジョブを実行するように設定されています。- ワークフローマッピングタスクに含まれているマッピングでマルチバイト文字が使用されている。
442102	電子メールサービスで環境変数がサポートされていない場合でも、電子メールサービスの「プロセス」タブに環境変数セクションが表示される。環境変数を追加すると、電子メールサービスはその環境変数を無視します。
441281	個別のリモートプロセスでジョブを実行するように設定されたデータ統合サービスグリッドで複数のマッピングを同時に実行する場合、ランタイム統計を保存するようにモデルリポジトリが設定されていないと、一部のマッピングの実行が次のエラーで失敗することがある。 [ICMD_10033] Command [runmapping] failed with error [com.informatica.ds.ms.service.MonitorHelper.purgeStatistics(MonitorHelper.java:125)]
439632	次の条件が当てはまる場合、マッピングの統合ログファイルに正しくない DTM ログファイルが含まれることがある。 <ul style="list-style-type: none">- データ統合サービスは、個別のリモートプロセスでジョブを実行するように設定されています。- マッピングタスクの実行数でマッピングタスクログファイルを保存するようにワークフローのマッピングタスクが設定されている。 回避策: タイムスタンプでマッピングタスクログファイルを保存するようにマッピングタスクを設定します。
439628	次の条件が当てはまる場合、データ統合サービスグリッドで実行されるマッピングが無期限にハングすることがある。 <ul style="list-style-type: none">- データ統合サービスは、個別のリモートプロセスでジョブを実行するように設定されています。- データ統合サービスが有効になり、マスタ計算ノードが選択された後でリソースマネージャサービスが使用できなくなる。 回避策: リソースマネージャサービスを有効にして、マッピングの実行を続行します。
436753	データ統合サービスグリッドに割り当てられているノードの計算ルールを更新し、データ統合サービスをリサイクルすると、Informatica クライアントツール間で動作が一致しないことがある。例えば、マッピングの実行が infacmd コマンドラインプログラムでは失敗するが、Developer tool では成功するということが起こります。 回避策: ドメインを再起動します。
435471	Kerberos ドメインの場合、個別のリモートプロセスでジョブを実行するように設定されているデータ統合サービスグリッドでマッピングの実行に失敗する。 回避策: 個別のローカルプロセスでジョブを実行するようにデータ統合サービスを設定します。
432752	ドメインで安全な通信が有効になっているのに、個別のリモートプロセスでジョブを実行するように設定されたデータ統合サービスグリッドがセキュアな接続を使用してリモート DTM プロセスと通信しない。

CR	説明
432316	個別のリモートプロセスでジョブを実行するように設定されたデータ統合サービスグリッドでマッピングを実行すると、infacmd コマンドラインプログラムやマッピングログでマッピングが失敗したことが示されていても、Administrator ツールの [モニタ] タブのマッピング状態が無期限に [実行中] として表示される。
431534	完全最適化レベルでロード順序の制約を使用するようにマッピングを設定すると、データ統合サービスがコストベースの最適化方式を適用しない。
427052	データ統合サービスグリッドで Web サービス要求を実行する場合、サービスロールしかないノードを使用するように外部 HTTP ロードバランサを誤って設定すると、データ統合サービスからサービスロールと計算ロールの両方があるノードに要求がリダイレクトされず、サービスロールしかないノードにディスパッチされた一部の Web サービス要求が失敗することがある。 回避策: サービスロールと計算ロールの両方があるノードを使用するように外部 HTTP ロードバランサを設定します。

Big Data の既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

CR	説明
PLAT-8729	SUSE 11 で MapR 5.1 を設定し、Hadoop クラスタで Sqoop マッピングを実行すると、次のエラーでマッピングが失敗する。 <code>com.mapr.security.JNI Security.SetClusterOption(Ljava/lang/String;Ljava/lang/String;Ljava/lang/String;)Isqoop</code>
PLAT-8714	Kerberos 認証が有効な SUSE 11 Hortonworks クラスタ上の HiveServer2 でマッピングを実行すると、MySQL 接続リークが発生し、次のエラーでマッピングが失敗する。 [HiveServer2-Handler-Pool: Thread-3439]: transport.TSaslTransport (TSaslTransport.java:open(315)) - SASL negotiation failure javax.security.sasl.SaslException: GSS initiate failed [Caused by GSSException: No valid credentials provided (Mechanism level: Failed to find any Kerberos tgt)] 解決策: MySQL 接続リークの発生回数を減らすことができます。このためには、Big Data Management 設定ユーティリティを実行した後に、hive-site.xml/hdfs-site.xml ファイル内の <code>hive.server2.authentication</code> プロパティ値を <code>NONE</code> から <code>KERBEROS</code> に変更します。 <pre><property> <name>hive.server2.authentication</name> <value>KERBEROS</value> </property></pre>

CR	説明
BDM-741 BDM-692 BDM-691	<p>Hadoop クラスタで Spark エンジンとのマッピングを実行すると、次のエラーでマッピングが失敗する。</p> <pre>[org.apache.hadoop.security.AccessControlException: Permission denied: user=<USER>, access=WRITE, ...]</pre> <p>回避策: Spark がマッピングを実行するときにユーザーを適切に認証するには、クラスタで追加の設定が必要です。</p> <p>Kerberos 非対応クラスタ: クラスタで認証に Kerberos を使用しない場合、Hadoop 管理者に連絡して次の手順を実行するよう依頼してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <code>/<Big Data Management installation home>/services/shared/hadoop/</code> <code><Hadoop_distribution><version>/conf</code> に移動し、次のプロパティを <code>yarn-site.xml</code> ファイルに追加します。 <pre><property> <name>fs.permissions.umask-mode</name> <value>002</value> </property></pre> 2. クラスタ管理 Web インタフェースで HDFS サービス設定ページを参照するか、<code>hdfs.xml</code> ファイルを開きます。 <code>superusergroup</code> プロパティを見つけます。dfs.permissions.superusergroup または dfs.permissions.supergroup というです。 3. 次のユーザーを <code>superusergroup</code> プロパティに追加します。 <ul style="list-style-type: none"> - データ統合サービスプロセスユーザーまたは偽装ユーザー - YARN ユーザー - マッピングで HDFS ターゲットを使用する場合は HDFS 接続ユーザー。 <p>注: マッピングで Hive ターゲットを使用する場合、HDFS 接続ユーザーを追加する必要はありません。</p> <p>Kerberos 対応クラスタ: Kerberos 対応クラスタの管理者は通常、クラスタのすべてのノードで偽装ユーザーをユーザーとして有効にします。これ以上の回避策は必要ありません。</p>
461622	<p>マッピング内の複数のトランスフォーメーションストラテジで、同じ確率モデルファイルまたは分類子モデルファイルが識別されると、Blaze 環境でマッピングの実行が失敗する。</p>
461610	<p>データソースが Hive ソースで、サンプリングオプションとして【すべての行】を選択し、Blaze エンジンでプロファイルを実行する場合、データドメイン検出を伴うカラムプロファイルが失敗する。</p> <p>回避策: サンプリングオプションとして【サンプリング最初の】、【ランダムサンプリング】、または【ランダムサンプリング（自動）】を選択してプロファイルを実行します。</p>
461286	<p>20 秒など、非常に短い間隔で Spark エンジンでのマッピングを実行すると、マッピングが OSGI エラーで失敗する。</p> <p>回避策: 「&eclipse.stateSaveDelayInterval:2000」というテキストを <code>hadoopEnv.properties</code> ファイルの次の OSGI プロパティの値に追加します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - <code>infaspark.executor.osgi.config</code> - <code>infaspark.driver.cluster.mode.osgi.config</code>
461044	<p>Spark エンジンでマッピングを実行すると、マッピング実行がコンパイルエラーで失敗する。</p> <p>原因: クラスタで Informatica Big Data Management に付属する Java 以外の Java のインスタンスが使用されている。</p> <p>回避策: Big Data Management と一緒にインストールされる Java のインスタンスを使用するようにクラスタを設定します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <code>JAVA_HOME</code> 変数を <code><Big Data Management Installation Home>/java/jre</code> に設定します。 2. <code>JAVA_HOME/bin</code> 変数を次のように設定します。 <code>PATH=\${INFA_HOME_BIN}:\${JAVA_HOME}/bin:\${PATH}</code> export PATH その後、Informatica ドメインおよびサービスを再起動します。
460997	<p>ユーザー偽装を設定し、Kerberos 認証を使用する Hadoop クラスタで Sqoop マッピングを実行すると、マッピングが失敗する。</p> <p>回避策: Hadoop 接続で Hadoop サービスプリンシパル名を使用し、マッピングを実行します。</p>

CR	説明
460915	Blaze 環境で、パーティション化されていないリレーショナルソースが含まれるデータマスキングマッピングのパフォーマンスが低下する。
460889	TEZ エンジンを使用して Hortonworks ディストリビューションで実行する Sqoop マッピングの結果が、共有体トランスフォーメーションで正しく生成されない。
460640	<p>Big Data Management は Java 1.8 を使用する Hortonworks Hadoop クラスタをサポートしている。クラスタで Java 1.7 が使用されると、Hive エンジンを使用して実行したマッピングが失敗する。次のようなエラーが表示されます。</p> <pre>Unrecognized VM option 'MaxMetaspaceSize=256M' Error: Could not create the Java Virtual Machine. Error: A fatal exception has occurred. Program will exit.</pre> <p>回避策: 次の手順を実行して、データ統合サービスをホストする仮想マシンで Hadoop プロパティを編集します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. データ統合サービスを実行する Informatica Big Data Management 実装の仮想マシンで、次のファイルを開いて編集します。 <Informatica installation directory>/services/shared/hadoop/ <Hadoop_distribution_name>_<version_number>/infaConf/hadoopEnv.properties 2. 次の行を見つけ、先頭に#文字を追加してコメントアウトします。 infapdo.java.opts=-Djava.library.path=\$HADOOP_NODE_INFA_HOME/services/shared/bin: \$HADOOP_NODE_HADOOP_DIST/lib/native:\$HADOOP_NODE_HADOOP_DIST/lib/*: \$HADOOP_NODE_HADOOP_DIST/lib/native -Djava.security.egd=file:/dev/./urandom -Xms512m - Xmx512m -XX:MaxMetaspaceSize=256M 3. 次の行を見つけ、先頭の#文字を削除してコメント解除します。 infapdo.java.opts=-Djava.library.path=\$HADOOP_NODE_INFA_HOME/services/shared/bin: \$HADOOP_NODE_HADOOP_DIST/lib/native:\$HADOOP_NODE_HADOOP_DIST/lib/*: \$HADOOP_NODE_HADOOP_DIST/lib/native -Djava.security.egd=file:/dev/./urandom -Xms512m - Xmx512m -XX:MaxPermSize=512m
460412	<p>Sqoop を経由してデータを Oracle データベースにエクスポートすると、特定の状況でマッピングが失敗する。この問題は、次の条件がすべて当てはまる場合に起こります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 直接引数を設定して OraOop を使用している。 - データに float データ型のカラムが含まれている。
459942	Spark エンジンがフラットファイルターゲット用に設定されたフッター行コマンドを実行しない。
459671	<p>Sqoop を経由してデータを IBM DB2 z/OS データベースにエクスポートし、バッチ引数を設定しない場合、マッピングが失敗する。</p> <p>回避策: マッピングでバッチ引数を設定し、再びマッピングを実行します。</p>
458238	ルックアップデータに NULL 値が含まれていると、Spark エンジンでのルックアップパフォーマンスが非常に低下する。
457397	Sqoop を使用し、カスタムクエリで結合条件を定義すると、マッピングが失敗する。
457072	Sqoop を使用し、同じ名前のカラムが含まれる 2 つのテーブルを結合すると、マッピングが失敗する。
456892	Blaze ランタイム環境で Hive ターゲットテーブルを作成または置換する DDL スクリプトを生成して実行すると、マッピングが失敗する。
456884	<p>Sqoop を使用し、最初のマッパータスクが失敗すると、以降のマッパータスクが次のエラーメッセージで失敗する。</p> <p>ファイルはすでに存在しています</p>

CR	説明
456866	Developer tool では複合ファイルオブジェクトで Avro データ型を Avro がサポートしないデータ型に変更できるため、実行時にマッピングエラーが起こる。 回避策: Avro データ型を変更する場合、サポートされているデータ型であることを確認してください。
456704	MariaDB JDBC ドライバを使用して、Sqoop で Aurora データベースからデータをインポートすると、マッピングが応答を停止する。
456616	Sqoop を経由してデータをエクスポートし、プライマリキー違反がある場合、マッピングが失敗し、不良レコードが不良ファイルに書き込まれない。
456608	Sqoop を使用するデータオブジェクトを更新し、データオブジェクトを同期しても、更新内容が Sqoop インポートコマンドに含まれない。
456455	論理データオブジェクト用に Sqoop を有効にしてデータを IBM DB2 データベースにエクスポートすると、Sqoop エクスポートコマンドが失敗する。しかし、マッピングはエラーなしで正常に実行される。
456285	Sqoop を経由してデータを Netezza データベースにエクスポートし、データベースに float データ型のカラムが含まれている場合、マッピングが失敗する。
455750	oraoop-site.xml ファイルで設定した OraOop 引数が Sqoop で読み取られない。 回避策: マッピングで OraOop 引数を Sqoop 引数の一部として指定します。
453313	Spark エンジンで複数の同時マッピングを実行すると、パフォーマンスが低下する場合があります、ログメッセージでリソースが使用できないと示される。データ統合サービスでは、マッピングがまだクラスターで実行中であってもマッピングが失敗したと示される。
453097	データオブジェクト用に Sqoop を使用し、関連付けられた読み取りまたは書き込みトランスフォーメーションでそのプロパティを更新すると、マッピングが IVector エラーメッセージで終了する。 回避策: 新しいデータオブジェクトおよびマッピングを作成します。
452819	HDP および CDH SUSE クラスター上で、Snappy 圧縮を使用するマッピングおよびプロファイルが HiveServer2 モードで失敗する。 回避策： Informatica ドメインで、クラスターネイティブライブラリの場所が含まれるプロパティを編集します。 1. 次のファイルをバックアップしてから、開いて編集します: <Informatica Installation Directory>/services/shared/hadoop/<Hadoop_distribution_name>_<version_number>/infaConf/hadoopEnv.properties 2. \$HADOOP_NODE_HADOOP_DIST/lib/native プロパティを見つけ、その値をクラスターネイティブライブラリの場所で置き換えます。 Hortonworks の例: /usr/hdp/2.4.2.0-258/hadoop/lib/native Cloudera の例: /opt/cloudera/parcels/CDH/lib/hadoop/lib/native Hadoop クラスター上: 1. HiveServer2_EnvInfa.txt ファイルを開いて編集します。 2. <Informatica distribution home>/services/shared/hadoop/<Hadoop_distribution>/lib/native の値をクラスターネイティブライブラリの場所にします。 3. HiveServer2_EnvInfa.txt ファイルの内容をコピーします。 4. hive-env.sh ファイルを開いて編集し、HiveServer2_EnvInfa.txt ファイルのすべての内容を貼り付けます。

CR	説明
452224	Tez で実行されるマッピングでサマリおよび詳細統計が空になる。
452114	データオブジェクト用に Sqoop を有効にし、テーブル名またはカラム名に Unicode 文字が含まれている場合、マッピングが失敗する。
450507	マッピングが失敗したとき、Spark エンジンでマッピング実行中にデータの格納に使用された一時的な Hive テーブルが削除されない。テーブルを手動で削除することはできる。
443164	<p>個別のリモートプロセスでジョブを実行するようにデータ統合サービスが設定されている場合、次のいずれかのソースから読み取るマッピングの実行がネイティブ環境で失敗する。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Hadoop 分散ファイルシステム (HDFS) のフラットファイルまたは複合ファイル - HIVE テーブル - HBase テーブル <p>回避策: データ統合サービスの計算ビューで、計算ロールのある各ノードの <code>INFA_HADOOP_DIST_DIR</code> 環境変数を設定します。環境変数に、データ統合サービスの [データ統合サービスの Hadoop ディストリビューションディレクトリ] 実行オプションに設定されている値を設定します。</p>
440423	ODBC 接続を使用して時間データを Netezza データベースに書き込むと、マッピングに失敗する。この問題は、Cloudera 5u4 でマッピングを実行する場合に発生します。
437196	複合ファイルオブジェクトのリソースファイルのパスが、ルートディレクトリで始まり文字列で終わるディレクトリの再帰パスとして表示される。
424789	ABS 関数と IIF 関数を併用する Hive ソースおよびターゲットを含むマッピングが Hadoop 環境で失敗する。
422627	<p>Hive ソースと、デフォルトのテーブル名がカラム名のプレフィックスとして使用されているフィルタ条件が含まれていると、Hadoop 環境のマッピングに失敗する。</p> <p>回避策: フィルタ条件を編集して、カラム名のプレフィックスとして使用されているテーブル名を削除し、マッピングを再度実行します。</p>
421834	Hadoop 接続の名前に 128 文字が使用されているために、Hadoop 環境のマッピングに失敗します。

Business Glossary Known Limitations

以下の表に既知の制限事項を示します。

CR	Description
461823	<p>After you conclude level 1 voting in an approval workflow and view level 1 voting comments, the voting details section of the voting dashboard becomes unresponsive.</p> <p>Workaround:View the voting details before you conclude level 1 voting.</p>
461624	<p>If you specify the <code>PROTOCOL_TYPE</code> property in the <code>SilentInput.properties</code> file as "HTTP" in uppercase and install Informatica Business Glossary Desktop, the protocol type parameter is incorrectly set to HTTPS.</p> <p>Workaround: Specify the <code>PROTOCOL_TYPE</code> property as "http" in lowercase.</p>

CR	Description
461308	<p>The Search Service does not display Business Glossary results for a search performed by a user, if you expand the scope of privileges for the user in the Administrator tool after the indexing is complete.</p> <p>Workaround: Assign the necessary privileges to the user before the Search Service indexes the Business Glossary data.</p>
460458	<p>The Analyst tool does not accurately display the number of attachments in an asset that you revised, after you import the glossary that contains the asset.</p>
459878	<p>The dock menu options such as Preferences, About Informatica Business Glossary Desktop, and Quit Informatica do not work on the Mac operating system.</p> <p>Workaround:</p> <ul style="list-style-type: none"> - Click File > Exit to exit the Informatica Business Glossary Desktop. - Click Edit > Settings > Preferences to edit the Informatica Business Glossary Desktop application preference settings. - Click Help > About Informatica Business Glossary Desktop to view information about the Informatica Business Glossary Desktop application.
459873	<p>The Informatica Business Glossary Desktop application does not automatically run after you log in to the computer.</p>
458916	<p>When you delegate a vote in the approval workflow process, you can select multiple users, but you see an error when you confirm your selection in the Analyst tool.</p> <p>Workaround: Do not delegate your vote to multiple users.</p>
458237	<p>The Informatica Business Glossary Desktop client does not appear in the Mac applications list.</p> <p>Workaround: Use the Terminal to navigate to the Informatica Business Glossary Desktop installation directory to launch the application.</p>
458075	<p>The Analyst tool does not send email notifications when the domain is configured with Kerberos authentication.</p>
457603	<p>When you install the Informatica Business Glossary Desktop on a Mac, the following error appears in the Terminal:</p> <pre>INM1HF4DWDJWV:Informatica_BusinessGlossaryDesktop_Mac infa\$./install.sh Trying to load library IAMac</pre> <p>Error trying to load library no IAMac in java.library.path</p> <p>Workaround: Ignore the error displayed in the Terminal and continue the installation.</p>
456124	<p>When an asset appears at different levels both on the left side and the right side in a relationship view diagram that has bi-directional relationships, the Analyst tool does not display the relationship levels correctly when you change the number of levels when the following is true:</p>

CR	Description
454561	<p>You cannot publish or reject Business Glossary assets when all of the following conditions are true:</p> <ul style="list-style-type: none"> - The voting was in process. - The Glossary administrator exported the glossary. - The Glossary administrator imported the glossary and replaced the assets that are already in the Analyst tool. <p>Workaround: Complete the voting process before you export the glossary, if you intend to import the glossary.</p>
447739	Business Glossary Desktop does not recognize line breaks. Content in business term properties that support the long string data type are displayed in a single line.

コマンドラインプログラムの既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

CR	説明
456536	タスクのビジネス管理者ではない場合に、infacmd wfs bulkComplete コマンドを実行して、ワークフローで指定される投票タスクを完了できる。
451454	Microsoft SQL Server 接続の UpdateConnection コマンドを実行するときに、[DSN の使用] オプションと [プロバイダタイプ] オプションに指定した値が検証されない。
443208	<p>infacmd dis updateParameterSetEntries コマンドまたは infacmd dis addParameterSetEntries コマンドのいずれかを Linux マシンで C シェルから実行した場合、これらのコマンドに一重引用符または二重引用符を埋め込むことができない。</p> <p>回避策: これらのコマンドを Bash シェルから実行した場合は、一重引用符または二重引用符を埋め込むことができます。</p>
441218	長時間 infacmd コマンドラインから複数の同時マッピングを実行すると、エラーでマッピング実行が失敗する可能性がある。
435815	infacmd wfs abortWorkflow コマンドまたは infacmd wfs cancelWorkflow コマンドを実行するときに「wait」オプション[-w]を使用できない。

Informatica コネクタツールキットの既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

CR	説明
441291	Linux 64 および AIX 64 プラットフォームで Informatica コネクタツールキットインストーラを使用できない。 回避策: 手動で Informatica コネクタツールキットを Linux または AIX プラットフォームにインストールする方法については、『Informatica コネクタツールキット Developer ガイド』の「Linux または AIX への Informatica コネクタツールキットのインストール」セクションを参照してください。
438209	フィルタ操作で Datetime データ型を使用すると、アダプタの読み取り機能をテストできない。 回避策: Informatica Developer クライアントを使用して、Datetime データ型をテストします。
438203	同じ名前だが大文字と小文字が異なるネイティブメタデータオブジェクトを作成すると、コードの生成に失敗する。 回避策: ネイティブメタデータオブジェクトごとに異なる名前を使用します。
435998	依存フィールドのある接続属性を編集すると、接続属性に対して行われた変更がテスト接続ウィザードに表示されない。

Data Transformation の既知の制限

以下の表に既知の制限事項を示します。

CR	説明
455003	階層入力とリレーショナル出力またはリレーショナル入力と階層出力があり、Decimal38 出力ポートがあるデータプロセッサトランスフォーメーションは、マッピングが失敗する可能性がある。Decimal38 出力ポートでの階層型からリレーショナルへのトランスフォーメーション、または Decimal38 出力ポートでのリレーショナルから階層型へのトランスフォーメーションも、マッピングが失敗する可能性があります。 回避策: これらのトランスフォーメーションの出力ポートに Decimal38 を使用しないようにします。
CM-7722	データプロセッサトランスフォーメーションでデータを JSON 出力に変換するときに、制御文字が \u 文字でエスケープされない。
CM-7720	HIPAA ライブラリパッケージを使用したデータプロセッサトランスフォーメーションの Edifecs バージョン 6.x で HIPAA 検証がサポートされない。
CM-7693	JSON 出力を使用したデータプロセッサトランスフォーメーションで、無効な Unicode 文字がゼロと 16 進の識別子ではなくバイナリゼロに置き換えられる。
CM-7692	データプロセッサトランスフォーメーションの Xml ストリーマが DOCTYPE 宣言のあるドキュメントを処理できない。
CM-7691	データプロセッサトランスフォーメーションが文字 0~31 のデータを JSON 出力に変換するときに、制御文字が文字 \u でエスケープされない。

データ型の既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

CR	説明
452731	SUSE 11 で Timestamp with Time Zone データ型を使用してマッピングを作成すると、次のエラーでマッピングが失敗する。 <i>Database driver event...Error occurred loading library [/usr/lib64/libstdc++.so.6: version 'GLIBCXX_3.4.11' not found (required by /export/home/svcoca/ocaagent/perforce/10/depends/bin/libicutu.so.55)]Database driver event...Error occurred loading library [libpmtimestampTexpr.so]"</i>
443876	Web サービスコンシューマトランスフォーメーションと REST Web サービスコンシューマトランスフォーメーションが Timestamp with Time Zone データ型をサポートしない。
442175	Timestamp with Time Zone データ型の未接続出力ポートを持つ Java トランスフォーメーションを含むマッピングをプレビューまたは実行できない。
441191	カラムのデータ型が Timestamp with Time Zone の場合、そのカラムに対して組み込みルールと値の頻度のルールが機能しない。
440559	【実行設定】 ダイアログボックスでデータ形式を指定していないか、ターゲットファイルで Timestamp with Time Zone 形式を指定していない場合、データ統合サービスが大きなデータセットの暗黙の変換中にランダムで行を拒否する。 回避策: データに 【実行設定】 で指定された日付形式とターゲットファイルに Timestamp with Time Zone 形式が含まれていることを確認します。100,000 行未満のデータセットは使用できます。
440398	入力行数が 100,000 より多く、マッピングに Timestamp with Time Zone ポートを持つ Java トランスフォーメーションが含まれる場合、マッピングが予期せずに失敗する場合があります。
439057	式エディタのテストパネルで Timestamp with Time Zone 入力ポートについてデフォルト値が常に表示されるとは限らない。 回避策: ソースデータに次の形式の Timestamp with Time Zone が含まれていることを確認します: MM/DD/YYYY HH24:MI:SS TZR
439054	AIX 6.1 で、マッピングに Timestamp with Time Zone データ型が含まれている場合に予期しない条件でマッピングが失敗する。
438661	マッピングが完全最適化レベルで設定されている場合でも、Timestamp with Time Zone データ型を含むマッピングにデータ統合サービスがコストベースの最適化方式を適用しない。
438061	マッピングで Timestamp with Time Zone データ型を使用すると、精度が秒を超えた場合にデータが切り詰められる。この問題は、論理データオブジェクトマッピングでデータオブジェクトのキャッシュを有効にして、データオブジェクトのキャッシュデータベースが IBM DB2 または Microsoft SQL Server 上にある場合に起こります。
438040	式エディタのテストパネルの最下段に表示される式の結果で Timestamp with Time Zone データについてナノ秒が無視される。
437066	TO_BIGINT 関数を含むマッピングを設定し、プッシュダウンの最適化のためにこの関数が 10 進値を bigint 値に変換すると、マッピングが不正なデータをターゲットに書き込む。 回避策: マッピングについてプッシュダウンの最適化を設定しないで、マッピングを再び実行します。

CR	説明
432822	次の Timestamp with Time Zone 関数の式形式の検証が失敗する: CREATE_TIMESTAMP_TZ、GET_TIMEZONE、GET_TIMESTAMP、および TO_TIMESTAMP_TZ。
427263	夏時間 (TZD) 形式のタイムゾーン領域を持つ Timestamp with Time Zone データ型を指定できない。
426892	Timestamp with Time Zone データ型のタイムゾーンオフセットを指定するときにコロン以外の区切り文字を使用できない。 回避策: Timestamp with Time Zone データ型のタイムゾーンオフセットについて区切り文字をコロンに変更します。
413806	精度が 35 桁から 38 桁の Decimal データ型のカラムについて SAP HANA データを読み取ることができない。

Developer tool の既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

CR	説明
461184	ストアドプロシージャまたは SQL トランスフォーメーションが含まれる、PowerCenter から Developer tool への Teradata と Netezza のマッピングをインポートすると、インポートが失敗する。
461005	データドメインアクセラレータで参照テーブルを使用するデータドメインルールを更新し、アクセラレータを XML ファイルとしてエクスポートすると、その XML ファイルが破損する場合があります。
459780	参照テーブルオブジェクトでのコピーと貼り付けの操作が失敗する場合があります。 回避策: オブジェクトのコピーと貼り付けを行う前に、F5 キーを押してモデルリポジトリビューを更新します。
459488	Teradata マッピングに精度が 15 未満の 10 進型カラムを読み取る SQL クエリが含まれる場合、PowerCenter から Developer tool にマッピングをインポートした後にマッピングが実行に失敗する。
458862	SQL マッピングを使用し、複合クエリを指定してマッピングを生成すると、Developer tool が応答を停止する。 回避策: developerCore.ini ファイルで-Xmx 値のデフォルト値を 1536M に増やして、Developer tool を再起動します。
457283	PowerCenter から Developer tool に Teradata または Netezza オブジェクトをインポートすると、オブジェクトはデフォルトで Teradata または Netezza オブジェクトとして変換される。
457076	仮想マシンに SQL Server JDBC ドライバをインストールしている場合、そのドライバを使用して Azure SQLServer に接続できない。

CR	説明
455937	<p>PowerCenter からのパラメータを含む Teradata および Netezza マッピングを Developer tool にインポートすると、マッピング変換フレームワークで自動的にオブジェクトとマッピング間がバインドされない。</p> <p>回避策: Teradata および Netezza マッピングをインポートすると、PowerCenter からのマッピングパラメータ<param>は Developer tool のオブジェクトレベルで<param_mappingname>に名前変更されます。</p> <p>このパラメータをマッピングパラメータとバインドするには、次のいずれかのタスクを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - Netezza または Teradata のソースおよびターゲットオブジェクトの【パラメータ】タブで、必要なパラメータを選択してから、【マッピングパラメータとして公開】を選択する。 - Netezza または Teradata のソースまたはターゲットオブジェクトで必要なパラメータを選択し、【インスタンス】値をクリックしてリストから【指定元:] で【パラメータ】を選択し、オブジェクトパラメータを必要なマッピングパラメータとバインドする。
455216	Developer tool で、IBM DB2 for z/OS テーブルの DECFLOAT データ型が Char(0)としてインポートされる。
448786	実行時に Microsoft SQL Server ソースからのカラムの取得を選択すると、データプレビューとマッピングが失敗する。
431728	<p>キーボードを使用して HTTP Web 接続を追加できない。</p> <p>回避策: マウスを使用して HTTP Web 接続を追加します。</p>
431726	<p>キーボードを使用して Web サービス接続を追加できない。</p> <p>回避策: マウスを使用して Web サービス接続を追加します。</p>
421946	大文字と小文字を区別するユーザー名を使用して Oracle 接続を作成すると、Developer tool でデフォルトのスキーマが表示されない。
409289	<p>IMFCryptographer ファイルを使用するユーザーが、Developer tool で権限のないモデルリポジトリオブジェクトにアクセスできる。</p> <p>回避策: Kerberos 認証を使用して、クライアントとサーバー間のパスワードの送信を防止します。</p>
393023	ネイティブ SSL 接続を使用して Oracle テーブルにデータプレビューを実行するか、またはネイティブ SSL 接続を使用して Oracle データオブジェクトを含むマッピングを実行すると、Developer tool が予期せずにシャットダウンする。

Intelligent Data Lake の既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

CR	説明
461094	<p>Intelligent Data Lake アプリケーションのワークシートでデータを作成するとき、前または後ろにスペースがある数値が含まれる文字列コラムが分割オプションで正しく分割されないことがある。</p> <p>数値が含まれる文字列コラムを分割すると、分割で数値コラムが作成される。数値コラムで数値と一緒にスペースが含まれていると、ワークシートでは数値が新しいコラムで正しく表示される。しかし、データをパブリッシュすると、数値コラムには NULL 値が含まれている。</p>
459983	<p>Intelligent Data Lake アプリケーションのワークシートでデータを準備するとき、数値のデータ型が Double、Decimal、または Float のコラムでは、CONCATENATE()関数を使用できない。数値コラムを連結すると、ワークシートの連結されたコラムに正しい結果が表示されます。しかし、データをパブリッシュすると、連結されたコラムには NULL 値が含まれています。</p> <p>回避策: データ型が String のコラムで CONCATENATE()を使用します。数値データ型が Double、Decimal、または Float のコラムは連結しないでください。</p>
459071	<p>科学的表記を使用する数値データを含むファイルをアップロードできない。科学的表記を使用する数値データを含むファイルをアップロードすると、アップロードがハングします。</p> <p>回避策: ページを更新してアップロードウィンドウを閉じます。ファイルに科学的記号を含むデータが含まれていないことを確認し、ファイルをもう一度アップロードします。</p>
458300	<p>Intelligent Data Lake Service を保護するために入力したキーストアパスワードに誤りがあると、サービスを有効にすることはできるが、Intelligent Data Lake アプリケーションにアクセスできない。ブラウザで Intelligent Data Lake アプリケーションを起動すると、ログインページが表示されます。ページにエラーメッセージは表示されず、ログファイルにエラーメッセージは書き込まれません。</p> <p>回避策: 保護された Intelligent Data Lake Service を開始する前に、キーストアパスワードが正しいことを確認します。</p>

Live Data Map の既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

CR	説明
461101	<p>Hive リソースでスキャンを実行すると、Enterprise Information Catalog に、カラムプロファイルが実行されたテーブルのアセットサイズとして誤った値が表示される。</p>
460886	<p>カタログサービスと Informatica Cluster Service の両方で Kerberos 認証を使用し、HBase RegionServer が 8 時間以上実行された後にシャットダウンすると、HBase プロセスがシャットダウンする。</p> <p>回避策: サービスを再起動します。</p>
460808	<p>内部クラスタデプロイメントでは、root 以外のユーザーとしてログインした後に Informatica Cluster Service を有効にすると、Live Data Map で java.lang.IndexOutOfBoundsException: Index: 0, Size: 0 エラーが生成される。</p>

CR	説明
460794	Informatica Platform バージョン 9.6.1 HotFix 3 または 10.0 リソースでスキャンを実行する場合、そのスキャンを一時停止またはキャンセルできない。
460692	Live Data Map を US English 以外のロケールでインストールできない。クラスタ名を、日本語、韓国語、または簡体中国語にしてカタログサービスと Informatica Cluster Service を作成しようとすると失敗します。 回避策: English ロケールを使用して Live Data Map をインストールするか、英語のクラスタ名でカタログサービスと Informatica Cluster Service を作成します。
460487	Live Data Map をデプロイするときに Yarn リソースマネージャの URI オプションで誤ったポート値を指定すると、Apache HBase のデプロイメントに失敗し、カタログサービスが応答しなくなる。
460485	Informatica Platform バージョン 9.6.1 HotFix 3 または 9.6.1 HotFix 4 リソースを使用してモデルリポジトリメタデータを抽出し、Informatica ドメインが SSL が有効になっている場合、リソースでのスキャンに失敗する。
460355	ResetScript.sh スクリプトファイルを実行した後、Informatica Cluster Service を有効にできない。この問題は、スクリプトファイルのクリーンアップで、/etc/hadoop-httpfs フォルダの削除に失敗するため発生します。
460058	【ランダム N 行】 プロファイルサンプリングオプションを選択して SQL Server リソースでスキャンを実行すると、プロファイルの実行が断続的に失敗する。
460054	Enterprise Information Catalog の 【リレーション】 タブに、Sybase リソースのプライマリキーと外部キーのリレーションが表示されない。
460007	エンタープライズ情報カタログで、ページされた Informatica プラットフォームリソースのリネージュ図が誤って表示される。
459770	Live Data Map をバージョン 10.1 にアップグレードすると、アップグレード後にカタログサービスが再起動するときに、Informatica Administrator にカタログサービスを使用できないことを示すメッセージが表示される。
459767	Kerberos を有効にした内部クラスタ用のカタログサービスを作成した後に、 【Kerberos の有効化】 オプションと 【SSL の有効化】 オプションが Informatica Administrator で有効でなくなる。
459654	Informatica Platform バージョン 10.0 を使用してモデルリポジトリメタデータを抽出すると、Enterprise Information Catalog に、例外トランスフォーメーションを含むソースデータのリネージュ情報が表示されない。
459390	Enterprise Information Catalog で、Informatica Platform リソースの 【概要】 タブにリソースタイプのバージョンが表示されない。
459354	次の条件が当てはまる場合、Informatica Platform リソースを編集するとき、アプリケーション名、またはアプリケーションのマッピングのパラメータセットに判読不能な文字が表示される。 - ターゲットバージョンを 10.0 または 10.1 にしてリソースを作成した。 - アプリケーション名、パラメータセット、ドメイン名、データ統合サービス名、またはユーザー名に i18n 文字が含まれている。
459098	アプリケーション名を指定せずに Informatica Platform リソースタイプを使用してスキャンを実行すると、Live Data Map では、パラメータセットが指定されているアプリケーションを含むすべてのアプリケーションが実行されない。 回避策: パラメータセットが指定されているアプリケーションごとに別々のリソースを作成します。

CR	説明
458932	Kerberos 認証を使用する内部クラスタに Live Data Map をデプロイすると、YARN Application Master により HTTP ERROR 500 エラーが生成される。
458618	HDFS リソース接続を使用してメタデータを抽出すると、Enterprise Information Catalog には、アセット概要情報に空のフォルダの数が表示されない。
458365	Kerberos 認証を使用しないクラスタに Live Data Map をインストールし、HDFS ソースが Kerberos 環境内に存在しない場合は、HDFS 接続のテストに失敗する。
458319	Informatica Platform リソースタイプを使用して 9.6.1 HotFix 3 バージョンのモデルリポジトリからメタデータを抽出し、ソースマッピングに SQL トランスフォーメーションが含まれている場合は、スキャナの実行に失敗する。
457399	HDFS リソース接続を使用して CSV ファイルからメタデータをインポートするときに 【先頭行をカラムヘッダーにする (CSV)】 を選択しないと、Enterprise Information Catalog の 【概要】 タブにソースカラムが誤った順序で表示される。
454452	Medium データセット設定で Live Data Map を使用していくつかの大きなリソースでスキャンを実行した後、Apache Slider は、HBase Master によって長時間実行されている RegionServer がシャットダウンされると、新しい HBase RegionServer を起動しない。
LDM-733	SUSE Linux を使用している場合、内部クラスタに Live Data Map をデプロイできない。

マッピングおよびワークフローの既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

CR	説明
461315	例外タスクの日付時刻値で検索と置換操作を実行するとき、Analyst ツールで、日付時刻値が入力した値で更新されない。この問題は、Analyst ツールブラウザで 【英語（英国）】 ロケールを使用する場合に発生します。 回避策: ブラウザのロケールを 【英語（米国）】 に設定します。
460888	マッピング中のデータターゲットを、いずれかのタスクで使用されるターゲットで置き換えると、複数のマッピングタスクが含まれるワークフローを検証することができない。
460871	例外タスクでの検索と置換オプションでは、タスクが Microsoft SQL Server データベースに存在する場合、Float データ型が数値データとして認識されない。
460729	Microsoft SQL Server データベースに存在する例外タスクデータのすべてのページで、 【すべて数字】 オプションを使用して数値を置換できない。 回避策: 数値データのカラムを 1 つ選択します。タスクのすべてのページで選択するカラムの数値を置換します。数値データの他のすべてのカラムでこのプロセスを繰り返します。
460715	タスクが作成されたワークフローでカラムデータを使用し、タスクのインスタンスをユーザーに配布した場合、例外タスクのカラムでデータを検索および置換できない。

CR	説明
459911	<p>グリッドのデータ統合サービスでワークフローデータベースのコンテンツを作成するときに、データ統合サービスが予期せずに停止すると、Administrator ツールに次のメッセージが表示される。</p> <p>ワークフローデータベースのコンテンツが存在しません。</p> <p>この問題は、データ統合サービスでオペレーティングシステムのプロファイルを有効にする場合に発生します。</p>
459791	ワークフローのログファイル名にタイムスタンプが含まれていません。
459488	Teradata または Netezza マッピングに精度が 15 未満の 10 進型カラムを読み取る SQL クエリが含まれる場合、PowerCenter から Developer tool にマッピングをインポートした後のマッピングの実行が失敗する。
458284	ワークフローの 2 つの包含ゲートウェイの間に 12 より多くのマッピングタスクが含まれている場合は、ワークフローアプリケーションをデプロイできない。
457765	オペレーティングシステムのプロファイルに従ってマッピングタスクを 1 つ含むワークフローを実行すると、そのワークフローでは、オペレーティングシステムのプロファイルによって指定されているディレクトリが作成されない。さらに、マッピングタスクの実行に失敗する。
457624	Kerberos 認証が有効なドメインで、スケジューラを使用して、マッピング、ワークフロー、またはその他の任意のジョブを実行できない。
456589	<p>コマンドタスクとヒューマンタスクを含むワークフローがデータ統合サービスの中断から回復したときに、Workflow Monitor にコマンドタスクの状態が正しく表示されない。コマンドタスクは回復時に再開されて完了していますが、Workflow Monitor にはそのタスクが実行中として表示されます。</p> <p>この問題は以下の条件が当てはまる場合に発生します。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ワークフローで、2 つの包含ゲートウェイの間に、コマンドタスクとヒューマンタスクが並列で実行される。 - ヒューマンタスクで、大量のタスクインスタンス（例: 600 タスクインスタンス）が生成される。
443810	<p>同じワークフローの同時インスタンスを複数実行すると、マッピングタスクが永続マッピング出力の更新に失敗する場合がある。</p> <p>回避策: ワークフローを開始するたびに 10 秒待ってから次のワークフローを開始します。</p>
443730	AIX オペレーティングシステムで、SSL 対応の Oracle 接続と Oracle 12C クライアントを使用して Oracle データベースに接続すると、マッピングが失敗する。
442040	<p>ODBC プロバイダをソースに接続するための MongoDB および Cassandra として選択すると、データ統合サービスがトランスフォーメーションロジックをソースにプッシュできず、NULL ポインタ例外が発生する。</p> <p>回避策: ODBC 接続オブジェクトの ODBC プロバイダを【その他】として指定し、マッピングを実行します。</p>
440849	データ統合サービスがアグリゲータトランスフォーメーションを持つマッピングにコストベースの最適化方式を適用すると、ジョイナトランスフォーメーション後にジョイナトランスフォーメーションとアグリゲータトランスフォーメーションが表示される前にデータがソートされている場合であっても、余分なソータートランスフォーメーションが追加される場合がある。
440275	コストベースの最適化方式を使用するようにマッピングが設定されている場合でも、未指定の行制限または LIMIT 句が SQL トランスフォーメーションに含まれるマッピングにデータ統合サービスがコストベースの最適化方式を適用しない。

CR	説明
439979	ODBC 接続を使用していて Netezza ターゲットにデータを書き込むと、データ統合サービスが Boolean および Timestamp データ型のデータを拒否する。
439220	書き込みトランスフォーメーションのターゲットに親子のリレーションを持つ 2 つのデータベーステーブルが含まれる場合、このオプションを【実行時にテーブルを作成または置換する】に対して有効にするとマッピングが失敗する。データ統合サービスは指定された順序でテーブルをドロップして再作成するため、親テーブルと子テーブル間のプライマリキーと外部キーの正しいリレーションを再作成できません。
431685	式でフィールド名に Unicode 句読文字が含まれているため、検証済みマッピングが式解析エラーで実行に失敗する。
429231	先頭にドル記号 (\$) が付いているワークフローパラメータ名を作成した場合に、検証エラーが発生しない。
426806	次の条件が当てはまる場合、フラットファイルソースを読み込むマッピングが実行時に完全に最適化されない場合がある。 <ul style="list-style-type: none"> - フラットファイルデータオブジェクトが、ソースファイルディレクトリに SourceDir システムパラメータを使用する。 - 個別のリモートプロセスでジョブを実行するように設定されたデータ統合サービスグリッドでマッピングが実行される。 回避策: ソースファイルディレクトリに文字列値またはユーザー定義のパラメータを使用するようにフラットファイルデータオブジェクトを設定します。
393416	デフォルトのマージファイル名を使用して、すべてのパーティションのターゲット出力を順次マージすると、パーティションマッピングが失敗する。 回避策: マージファイルのデフォルト名を変更します。
375473	SQL データサービスクエリで長い WHERE 句が生成される場合、ソースへのプッシュダウンが失敗する。例えば、SQL クエリで 61 KB 以上の WHERE 句が生成される場合、ソースへのプッシュダウンが失敗します。 回避策: クエリの最適化レベルを下げるか、データ統合サービスを実行する JVM のメモリを増やします。

Metadata Manager の既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

CR	説明
461099	前バージョンの Metadata Manager からリソースで rmu コマンドラインプログラムを実行する場合は、移行に失敗する。例えば、10.1 にアップグレードされておらず、アップグレードプロセスによって廃止のマークが付けられている 9.6.1 HotFix 4 リソースで rmu version 10.1 を実行すると、移行に失敗する。
461098	データベース名にマッピングされているスキーマを含む Teradata リソースの増分ロードを有効にすると、Metadata Manager が常にフルメタデータロードを実行する。
460309	Oracle リソースを増分ロードすると、mm.log ファイルには"unique constraint"トランスフォーメーションエラーがいくつか表示される。

CR	説明
457381	バージョン 9.5.1 またはすべての 9.5.1 HotFix のデプロイされたアプリケーションからメタデータを抽出する Informatica Platform リソースはロードできない。 回避策: アプリケーションのアーカイブファイルからメタデータを抽出します。
455422	パッケージリソースまたはユニバーサルリソースをロードし、接続を更新すると、[リンクの詳細] レポートに重複した接続名が表示され、正しい接続との間でリンクされない場合がある。
442486	ビジネス用語を含んだビジネス用語集リソースをロードするとき、そのビジネス用語にルールアセットや Metadata Manager の関連付けられたアセットがある場合、Metadata Manager サービスは Metadata Manager の関連付けられたカタログオブジェクトを Analyst ツールの関連付けられたアセットと同期しない。ロードログには次のようなエラーが表示されます。 BG links migration failed... The requested object does not exist in the catalog. 回避策: 関連付けられたカタログオブジェクトを関連付けられたアセットと同期するには、グロッサリをロードする前に用語からルールアセットの割り当てを解除します。ロードが完了したら、用語にルールアセットを再度割り当てます。
442395	rmu 移行ユーティリティを使用して 9.5.1 HotFix 2 リソースを移行する場合、次のエラーで移行に失敗する。 ERROR - Unrecognized option: -includePassword ERROR - Migration for resource:Resource Type-<Type>, Source System Version-<Version>, name-<Name> failed 回避策: Metadata Manager ウェアハウスをバージョン 10.0 にアップグレードして、廃止されたリソースを移行します。
441925	特定のリソースのロードが不規則に失敗し、mm.log ファイルに次のエラーが記録される。 LoaderThread] ERROR TaskHandler - An error occurred in LineageGraphInternalLinksCreationTaskHandler: com.orienttechnologies.orient.core.exception.ODatabaseException: Error on saving record #<number> 回避策: 次のプロパティを imm.properties ファイルに追加して、デフォルト値よりも小さなプロパティ値を指定します。 - Lineage. PreCompute.ElementsInSingleTransaction.デフォルトは 50,000 です。 - Lineage. PreCompute.FetchBlockSize.デフォルトは 5000 です。
441860	Metadata Manager リポジトリのデータベースタイプが Microsoft SQL Server で、データベース接続 URL にセキュア JDBC パラメータを使用する Metadata Manager サービスを作成した場合、Metadata Manager サービスがデータベースに接続できない。 回避策: セキュア JDBC パラメータの文字列を引用符で囲みます。
441322	Kerberos 認証を使用するドメインでビジネス用語集リソースをロードした後、ロードステータスが「ロードに成功しました;インデックス作成の成功;リンクされていません」にならずに「ロードに成功しました;インデックス作成の成功;リンク作成に失敗しました」になる。
440627	信頼関係接続を使用する Microsoft SQL Server リソースのロードが次のエラーで失敗する。 Could not create source connection in PowerCenter repository.
439498	バックスラッシュ記号 (\) を使用する用語名を含む Business Glossary リソースをロードすると、次のエラーによりロードに失敗する: 行<number>の値が不完全です。
432827	Metadata Manager は、動的マッピングのメタデータ抽出をサポートしていません。
426995	クラスレベルのリレーションが「いずれのモデル、いずれのクラス」のカスタムオブジェクトが PowerCenter マッピングにリンクされている場合、このオブジェクトに対するデータリネージュが誤ったものになる。

CR	説明
420072	用語集名に異なる組み合わせの特殊文字が含まれる Business Glossary リソースをロードすると、内部エラーまたは Java ランタイム例外でロードが失敗することがある。
395899	リネージュ図の【検索】 ボタンを最初にクリックしたとき、検索結果が表示されない。 回避策: もう一度ボタンをクリックし、検索結果を表示します。
393548	Metadata Manager で、ビジネス用語の関連付けられたカタログオブジェクト名の最初の文字がスペースの場合、対応するデータセットが Analyst ツールのビジネス用語集で更新されない。また、ビジネス用語の関連するカタログオブジェクトの名前に次のいずれかの文字が含まれる場合、Analyst ツールのビジネス用語の URL が機能しない。 ` ~ ! @ # \$ % ^ & * () , / \ "`

PowerCenter の既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

CR	説明
450540	デュアルソース ID 照合分析が実行に失敗し、マッピングのソースが現在のモデルリポジトリでない場合、PowerCenter 統合サービスで役に立たないエラーメッセージが生成される。
442622	Microsoft SQL Server 接続で ODBC プロバイダタイプを使用している場合、エラーアクションを指定できない。
425055	Microsoft SQL Server ODBC 接続の【プロバイダタイプ】と【DSN の使用】オプションを pmrep UpdateConnection コマンドを使用して更新すると、そのコマンドが失敗する。
423523	Windows プラットフォームで、Sybase IQ 外部ローダーの接続を使用して Sybase IQ ターゲットにロードするクエリを実行し、Server Datafile ディレクトリにアクセスできない場合、セッションが停止する。 回避策: マッピングを実行する場合は、PowerCenter 統合サービスをホストする Windows マシンが Sybase IQ サーバーにアクセスできることを確認します。
392671	メタデータ Web サービスの特権のチェックに失敗する。

プロファイルおよびスコアカードの既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

CR	説明
461603	プロファイリングウェアハウスが Microsoft SQL Server データベースにある場合、異常値の検出が機能しない。
460151	すべてのデータドメインを選択し、ランタイム環境として Hive を選択する場合、ドメイン検出が失敗する。
460075	Blaze エンジンでカラムプロファイルを作成して実行すると、カラムに不正なスケールが表示され、不正なデータ型であることが示される場合がある。
459866	Analyst ツールで次の条件が当てはまる場合、サマリビューの異常値カウントで N/A の代わりに 0 が表示される。 1. カラムプロファイルを作成して実行した。 2. サマリビューで異常値を検出した。 3. プロファイルを編集してプロファイルを実行した。 4. サマリビューでプロファイル結果を表示した。
458913	プロファイルの一部のカラムを選択した場合、Sqoop ソースでカラムプロファイルの実行が失敗する。 回避策: Sqoop ソースでカラムプロファイルのカラムをすべて選択します。
456994	タイムスタンプが Time Zone データ型であるカラムを含むデータソースに対してカラムプロファイルを作成して実行し、ランタイム環境として Hive または Hadoop を選択すると、プロファイル実行が失敗する。
455851	プロファイルおよびスコアカードで <code>infacmd sch</code> コマンドが存在しない。
454839	Developer tool で、Apache Drill を使用して Parquet ファイルを作成し、その Parquet ファイルに対するカラムプロファイルを作成すると、エラーが表示される。
449610	プロファイリングウェアハウス用に JDBC 接続を設定し、Blaze エンジンでプロファイルを実行すると、カラムプロファイルの実行が失敗する。

ルール仕様の既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

CR	説明
460038	バージョン 10.1 にアップグレードする前にコンパイルしたルール仕様の [プロパティ] ビューで、コンパイル操作が生成されたマップレットが特定されない。
459453	次の条件が当てはまる場合、ルール仕様を検証できない。 - ルール仕様のルール文にマップレットを追加した。 - ルール文に追加するマップレットに、別のマップレットへの参照が含まれている。 - 現在のセッションで作成したルール仕様から、毎回追加するマップレットをコンパイルした。 回避策: Analyst ツールからログアウトして、再度ログインします。

CR	説明
442146	<p>次の条件が当てはまる場合、Analyst ツールではルール仕様の入力の名前が変更され、ルール仕様が無効化される。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ルール仕様が、バージョン 10.0 にアップグレードするモデルリポジトリに存在する。 - ルール仕様に 1 つ以上の同じ名前が入力が含まれている。 <p>回避策: その入力をルールセットから削除します。入力を再度作成し、ルールセットに追加します。</p>
439899	<p>ルール仕様をテストしているとき、その仕様に他のルール仕様から生成したマップレットが含まれている場合、Analyst ツールで正しくない結果が返される。この問題は、生成したマップレットがモデルリポジトリの他のマップレットを読み取るときに発生します。</p> <p>回避策: Analyst ツールからログアウトして、再度ログインします。Analyst ツールに表示されるエラーメッセージは無視してください。</p>
439453	<p>ルール仕様をテストしているとき、その仕様に他のルール仕様から生成したマップレットが含まれている場合、Analyst ツールで正しくない結果が返される。この問題は、マップレットを生成したルール仕様に、モデルリポジトリのマップレットと同じ名前のルールセットがある場合に発生します。</p> <p>回避策: Analyst ツールからログアウトして、再度ログインします。Analyst ツールに表示されるエラーメッセージは無視してください。</p>
439258	<p>Analyst ツールでは、ルール仕様を開くとき、その仕様に他のルール仕様から生成したマップレットが含まれている場合、エラーメッセージが表示される場合がある。この問題は、マップレットをルール仕様に追加した後で、同じ Analyst ツールセッションで別のバージョンのマップレットを生成した場合に発生します。</p> <p>回避策: Analyst ツールからログアウトして、再度ログインします。Analyst ツールに表示されるエラーメッセージは無視してください。</p>
439182	<p>リンクされたルール文のチェーンをルール仕様内の他のルールセットにコピーすると、そのルール仕様からマップレットを生成できない。この問題は、マップレットをチェーン内の 2 番目以降のルール文に組み込む場合に発生します。この問題は次の状況で発生する場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ルール文のチェーンを同じルール仕様内または別のルール仕様内のルールセットにコピーする。 - ルール文のチェーンを含んだルールセットを同じルール仕様内または別のルール仕様内の別の場所にコピーする。
378801	<p>同じルールセットでは、加算操作または減算操作から出力を生成するルール文と、乗算操作または除算操作から出力を生成するルール文を設定できない。Analyst ツールは、加算操作または減算操作からの出力を乗算操作または除算操作からの出力と異なるデータ型として扱う。</p> <p>回避策: ルール文を異なるルールセットで設定します。</p>

サードパーティ製品に関する制限事項

以下の表にサードパーティの既知の制限事項を示します。

CR	説明
BDM-937	Cloudera Manager を使用して Cloudera に Big Data Management をインストールする場合、区画は.flood ディレクトリにコピーされず、次のエラーでインストールが失敗する。 Src file /opt/cloudera/parcels/.flood/INFORMATICA-10.1.0.informatica10.1.0.p1.364-sles11.parcel/INFORMATICA-10.1.0.informatica10.1.0.p1.364-sles11.parcel does not exist. また、Cloudera Manager を使用して Cloudera の Big Data Management をアンインストールした後、区画が.flood ディレクトリから削除されない。 回避策： - Cloudera に Big Data Management をインストールする場合は、区画ファイルと.torrent ファイルを<parcel-repo>/.flood ディレクトリに手動でコピーします。 - アンインストール後に、<parcel-repo>/.flood ディレクトリのファイルを手動で削除します。 Cloudera の参照番号: 103733
461762	Netezza ODBC ドライバを使用して、Unicode データを Netezza データベースに書き込む場合、Netezza ターゲットに Varchar 型のカラムが含まれているとマッピングが失敗することがある。マッピングは、DataDirect Driver Manager の問題が原因で失敗します。 DataDirect の参照番号: 00343606
461032	キーで結合が行われない場合、Spark エンジンではマスタ外部結合または詳細外部結合の出力を返さないが、カラムを定数または NULL と比較する。 Apache JIRA の参照番号: https://issues.apache.org/jira/browse/SPARK-14854
459901	Developer tool で JDBC 接続を使用して、time データ型を含む Netezza ソースオブジェクトをインポートすると、データのプレビューに失敗する。
459539	MapR クラスターのユーザー偽装で承認を使用すると、次のエラーでマッピングが失敗する。 User <username>(user id <userid>) does not have access to maprfs:///<path>/<filename> MapR 問題参照番号: 00037816
458899	Teradata ODBC ドライバを使用し、Unicode データを Teradata データベースに書き込む場合、Teradata ターゲットに Varchar カラムが含まれているとマッピングに失敗する。マッピングは、DataDirect Driver Manager の問題が原因で失敗します。 DataDirect の参照番号: 00343606
458500	データ統合サービスでオペレーティングシステムのプロファイルと偽装を true に設定し、Developer クライアントで使用可能なオペレーティングシステムのプロファイルを OSP1 に設定し、Teradata マッピングをネイティブモードで実行すると、マッピングに失敗する。 回避策: データ統合サービスでオペレーティングシステムのプロファイルと偽装を false に設定してからマッピングを実行します。 Teradata の事例番号: RECGV4J3Q
457560	Sqoop を経由してデータを Oracle データベースからインポートし、データベースに Clob データ型のカラムが含まれている場合、マッピングが失敗する。 Sqoop チケットの参照番号: SQOOP-2945
452471	ソースデータベースに対して TLS 暗号化が有効になり、Metadata Manager リポジトリが Microsoft SQL Server データベースで、TLS 暗号化が有効になっている場合、Microsoft SQL Server リソースをロードできない。 Data Direct の事例番号: 00343832

CR	説明
448529	MapR 4.0.2 YARN および MapR 4.0.2 ディストリビューションでドメイン検出を使用してプロファイルを実行すると、あいまいなカラムの参照エラーでプロファイルに失敗する。
442760	ODBC 接続を使用して、Teradata クライアントバージョン 15.10.0.1 にデータを書き込むと、データ統合サービスで数値データ型のデータが拒否される。 Teradata チケットの参照番号: RECGNXMLL
439606	Teradata ターゲットの 5 番目の位置に CHAR または VARCHAR データ型のカラムが含まれていると、データ統合サービスで NULL 値がカラムに書き込まれる。この問題は、ODBC 接続を使用してデータを書き込む場合に発生します。 DataDirect の事例参照番号: 00324380
438965	MapR 4.0.2 Yarn または MapR 4.0.2 classic Hadoop ディストリビューションファイルで複数のデータドメインが含まれるデータドメイン検出プロファイルを実行すると、プロファイル実行が失敗する。
414220	精度が 38 桁の Decimal データ型の SAP HANA データベースのデータをプレビューすると、データプレビューが継続的に実行され、マッピングを実行すると、エラーで失敗する。 SAP チケットの参照番号: 0000624569 2015
413119	Timestamp with Time Zone データ型のメタデータをインポートすると、このデータ型のスケールが 6 ではなく 0 として表示される。 DataDirect の参照番号: 00310850
410495	AIX オペレーティングシステムでは、AIX の SAP HANA データベースとの安全な通信を SSL プロトコルで有効にすると、マッピングが予期せず終了する。 SAP チケットの参照番号: 0001101086
410437	ターゲットの IBM DB2 テーブルのユーザー名またはパスワードが 8 文字より長い場合、Hive 環境でマッピングに失敗する。Hadoop クラスタのログに次のエラーが表示されます。 次により発生: java.io.IOException: マッピングの実行が次のエラーにより失敗しました: WRT_8001 データベースへの接続エラー... WRT_8001 [セッションWrite_EMP_OUT5_MAPPING_3285816766724683 ユーザー名 test_it2 DB エラー -1 [IBM] [CLI ドライバ] SQL30082N セキュリティの処理が次の理由で失敗しました「24」(「USERNAME AND/OR PASSWORD INVALID」)。SQLSTATE=08001 回避策: IBM DB2 データベースのユーザー名とパスワードが 8 文字以下であることを確認します。
398978	Teradata Connector for Hadoop (TDCH) を使用し、Kerberos 認証を使用する Hadoop クラスタで実行する場合、マッピングが失敗する。 回避策: kinit コマンドを使用し、マッピングを実行する前にすべてのクラスタノードで有効なチケットを生成します。
395943	MySQL テーブル名に特殊文字が含まれていると、Developer tool でカラムが一部インポートされない。この問題は、DataDirect ODBC および JDBC ドライバを使用してメタデータをインポートする場合に発生します。 DataDirect チケットの参照番号: 00322369
393899	Oracle 12c データベースを Kerberos 認証用に設定できない。 Oracle SR 番号: 3-8990776511

CR	説明
373732	<p>Oracle データベースに対して安全な通信が有効にされている場合、Oracle ソースからデータを読み取るセッションまたは Oracle ターゲットにデータを書き込むセッションが失敗することがある。セキュアな Oracle データベースに対してデータベースルックアップを実行すると、セッションが失敗しやすくなります。</p> <p>回避策: Informatica グローバルカスタマサポートにご連絡ください。参照 Oracle SR 番号: 3-8287328531.</p>
370702	<p>Oracle メタデータソースに対して安全な通信が有効にされている場合、Oracle リソースを作成できない。同様に、安全な通信が有効にされていると Oracle データベース上に Metadata Manager リポジトリを設定できない。</p> <p>Oracle SR 番号: 3-8287328531</p>

トランスフォーメーションの既知の制限事項

以下の表に既知の制限事項を示します。

CR	説明
459356	階層からリレーショナルへのトランスフォーメーションで Avro および Parquet の入力形式がサポートされない。
434792	キーフィールドポートを照合ストラテジに含んでいないと、一致トランスフォーメーションでキーフィールドポートの ID 分析が実行され、照合ストラテジポートが無視される。トランスフォーメーションでキーフィールドデータの照合分析が正しく実行されず、正確なクラスタが作成されません。
430163	<p>REST Web サービスコンシューマトランスフォーメーションのポートビューにフィールドをコピーできない。</p> <p>回避策: ポートを REST Web サービスコンシューマトランスフォーメーションに手動で追加します。</p>
408000	入力スキーマを定義しない、または REST コンシューマ入力のルート要素に要求入力グループをマッピングしない場合、REST は失敗し、エラーメッセージは表示されない。
407604	<p>カスタムポートを追加すると、再利用できない REST トランスフォーメーションにより、削除されたカスタムポートに新しいカスタムポートが間違って追加される。</p> <p>回避策: トランスフォーメーションを再作成します。</p>
395353	<p>式トランスフォーメーションで ABORT()関数を使用すると、データ統合サービスが式トランスフォーメーションを処理しない。</p> <p>回避策: 出力ポートの初期値を 0 に変更し、マッピングを再実行します。</p>
387899	データ統合サービスが Microsoft SQL Server の Uniqueidentifier データ型にキャッシュされたルックアップとキャッシュされないルックアップを実行すると、同じ数の行を返さない。

CR	説明
356755	キージェネレータトランスフォーメーションが一意のシーケンス ID 値を Hadoop 環境で生成できない。
CM-7737	トランスフォーメーションウィザードを使用して、1 つのフォルダで階層型からリレーショナルへのトランスフォーメーションまたはリレーショナルから階層型へのトランスフォーメーションを作成し、別のフォルダでスキーマを参照しようとする、ウィザードに失敗する。

第 5 章

Informatica グローバルカスタマサポート

Informatica Network の電話またはオンラインサポートからグローバルカスタマサポートに連絡できます。

各地域の Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica Web サイト (<http://www.informatica.com/us/services-and-training/support-services/global-support-centers>) を参照してください。

Informatica Network メンバである場合は、オンラインサポート (<http://network.informatica.com>) を使用できます。